

特定非営利活動法人

VOL.51

南国暮らしの会

2011年 春季号



平成23年 5月7日



登録第4810100号
(REGISTRATION NUMBER)

NPO法人 南国暮らしの会

南国暮らしの会

(2011年 春季号)

目 次

(敬称略)

ページ

平成 23 年度総会案内

平成 23 年度(第 13 期)南国暮らしの会総会のご案内	No. 732	馬場 章介	1
平成 22 年度事業報告書	No. 732	馬場 章介	3
平成 22 年度収支計算書			7
平成 22 年度貸借対照表			8
平成 22 年度監査報告書			9
平成 23 年度事業計画書案			10
平成 23 年度会計収支予算書案			11

元理事長 酒匂景輝氏の逝去を悼む

酒匂さんの逝去を悼む	No. 732	馬場 章介	12
元理事長酒匂景輝大先輩を悼む	No. 163	宮寄 哲郎	12
故酒匂氏を偲んで	No. 558	伊澤 豊	14

鼎談 ロングステイの魅力について

No. 465 橋本 慧 No. 754 松本都志重 No.1161 永島 和雄	15
データから見た長〜い人生	会 報 部 会 21

初めてのロングステイ

バスタ デ ソンテウ	No.1418	川原 千里	22
何故チェンマイなの?	No.1436	森 定信	24
チェンマイ訪問記	No.1473	名倉 孝	26

覆面座談会 「奥様のチェンマイ暮らし」	28
---------------------	----

KL・ペナン・チェンマイ・マニラ・セブの物価事情	会 報 部 会 32
--------------------------	------------

会員からの投稿

Air Asia	No.1113	木村 誠治	33
チェンマイから海外へ	No. 851	稲田 聡	34
ニュージーランド・ワンガマタ Golf, Golf and Golf	No. 281	梶村真一 村松幸子	36
南国暮らしの会 バリ島視察旅行	No.1244	金井 修二	39
南米の旅④ 最終回 アルゼンチン・パタゴニア(ブラジル)編	No. 40	平澤 信	43

支 部 便 り

チェンマイ支部便り	No. 723	山本 幹夫	53
平成 22 年度ハワイ支部活動情報	No. 712	高田 勝弘 No.1016 村林 修次	55
平成 22 年度バギオ・パンガシナン支部活動報告	No. 227	斎木 一	55
平成 22 年度九州支部活動報告	No. 581	朝永 清寿	55
関西支部便り	No. 891	徳永 卓雄	56
関東甲信越支部活動報告	No.1125	佐々木一信	57
平成 22 年度北海道活動情報	No.1009	佐藤 治己	58
東海支部 22 年度活動報告	No. 543	清水 重一	59

南国暮らしの会 支部一覧	60
友好団体紹介コーナー	60
編集後記	60

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます

この度の東日本大地震により、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復興と皆様のご健康をお祈りいたします。

南国暮らしの会
理事長 馬場 章介
会員一同

平成23年度（第13期）南国暮らしの会総会のご案内

理事長 馬場章介

若葉の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、南の会にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、定期総会を下記の要領にて開催いたしますので、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

表決権を有する会員は同封の葉書に出欠を記入しご返送願います。また欠席の方は同じ葉書下部記載の「平成23年度総会表決権行使委任状」にも記入しご返送をお願いいたします。

尚、今年度の総会表決権行使資格者は、昨年同様本年3月31日までに23年度年会費を納入された継続正会員の方ですのでご承知おき下さい（葉書は議決権を有する方のみに同封しております）。

記

日時： 平成23年5月29日（日）午前10時～11時30分

場所： 東京都南部労政会館（JR大崎駅南口徒歩3分、次ページ案内図参照）

1、総 会 議 題

- *第1号議案：平成22年度事業報告書及び決算報告・監査報告について(会報別頁参照)
- *第2号議案：平成23年度事業計画案及び予算案について(会報別頁参照)
- *その他：理事業務分担

2、総会の議事進行について

総会開催に当たり、会員の皆様は各議案内容を今会報にて事前にご検討していただき、ご出席できない方は同封葉書の「平成23年度総会表決権行使委任状」を予めご提出頂くことにしております(提出期限は5月25日です。この期限を過ぎた委任状は失効しますのでご注意ください)。

当日ご出席の方は員数確認のため必ず10時までに受付を済まして入場して下さい。受付係りも表決権者ですので10時にて受付を終了します(遅刻されますと表決権は失効します)。

なお、議決権を有しない会員（４月以降に入会された新会員、会費納入が４月以降の継続会員）及び家族会員の方は別に席（総会会場議長席に向かって左側）を設けてありますので、そちらにご着席下さい。

The map shows the area around JR Maatsuyama Station. The station is at the bottom, with tracks running horizontally. The station building is labeled 'JR大崎' (JR Maatsuyama). To the left of the station is the '西口' (West Exit) and to the right is the '東口' (East Exit). A '北改札口' (North Ticket Gate) is also indicated. A '新東口' (New East Exit) is shown to the right of the station. A '山手通り' (Yamanote Street) runs horizontally to the right of the station. A '新大崎勤業ビル' (Shin-Matsuyama Kinsei Building) is located to the right of the station. A 'パティオ' (Patio) is located to the left of the station. A 'ホテルニューオータニイン東京' (Hotel New Otani Inn Tokyo) is located to the left of the station. A '日精ビル' (Nissho Building) is located to the right of the station. A '大崎事務所 南部労政会館' (Maatsuyama Office Nambu Rousei Kaikan) is located to the right of the station. A 'ゲートシティ大崎 ウエストタワー' (Gate City Maatsuyama West Tower) is located to the right of the station. A '1階入口' (1st Floor Entrance) is located to the right of the station. A '2階' (2nd Floor) is located to the right of the station. A 'EV' (Electric Vehicle) parking area is located to the right of the station. A '交番' (Police Box) is located to the right of the station. A '噴水' (Fountain) is located to the left of the station. A 'TOCビル' (TOC Building) is located to the left of the station. A '至波谷' (To Namiya) road is shown at the bottom left. A '至品川' (To Shinagawa) road is shown at the bottom right. A '至大井町' (To Ohtsuka) road is shown at the bottom right.

① JR大崎駅 南改札口より3分
② 連絡デッキのエレベーターで1階に降りて、1階入口より入る

平成22年度 事業報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会
理事長 馬場 章介

1. 事業の成果

1) 理事会

本年は理事の改選期にともない、新しい理事として13名就任されました。その結果理事の殆どが会員番号1千番台になりました。全員業務不慣れでありましたが、前任理事の協力を得まして事務引継ぎもスムーズに行われ、新任の各部委員の方々のご尽力により、会の運営に支障もなく実務を遂行する事ができました。

2) 国内支部活動

各支部ともサロン会・情報交換会・旅行企画等活発な活動が行われました。22年5月29日(土)には国内支部長及び役員会が開催され、各支部の活動報告、活動予定が報告され、意見交換も行われました。

支部長会で問題とされた、グループ旅行については、各支部で企画運営されても最終的には何かあれば、当会に責任は及ぶ事になりますので、全て自己責任と言う事を徹底し、万一事故があっても当会に責任は及ばないとした上で、大いにグループ旅行も楽しもうという方針を徹底し、この1年間問題は発生しませんでした。

3) 海外支部の動向

海外支部では、サロン会、食事会、その他短期訪問会員への支援も活発に活動して頂き感謝にたえません。

特にチェンマイでは1、2、3月のシーズンには100名以上の会員の皆様が訪問し、役員の方、又、長期滞在者の方に大変なご支援頂きました。

4) 会報について

年4回発行から年3回になりましたが支障はなく、会員には必要な情報をタイムリーに伝えることができ、さらに興味深いLSの情報をお伝えすることができました。

5) HP (ホームページ) 及び南国ML (メールングリスト) について

近年新規入会者はHPを見て入会される方が大多数でHPの意義は当会にとって大きな存在ですが、絶えず情報のメンテナンスを行い新鮮な情報を外部に発信できるように努めました。

南国MLにつきましても多くの会員の方に友好的に有意義に活用して頂きました。

6) 「入会案内」の見直しと増刷をおこないました。(会員部会)

2. 事業の実施に関する事項

1) 会報作成/発行

◎春季号(VOL. 48) 22年5月9日発行 (52頁)

平成22年度総会案内、フィリピン特集

◎夏秋季号(VOL. 49) 22年8月29日発行74頁)

平成22年度総会報告、台湾特集

◎新年号(VOL. 50) 23年1月8日発行 (48頁)

創刊50号記念、各国のリタイアメントビザ最新情報

2) メーリングリスト (ML)

南国MLはメインの第1MLを中心に順調に推移しました。第2メールについては、今年度は投稿がありませんでした。

22年度の南国ML登録会員は592名となっており、昨年度の563名を上回りました。会員総数の約90%がMLに登録している事となり、このことはMLが会員にとってますます重要な情報交換のツールとなっている事をうかがわせます。

MLの内容としては『お出かけ情報』が圧倒的に多いが、このほかにLS情報としてバギオ、セブ、バリ、チェンマイからの投稿や、ヨーロッパ旅行記の投稿などが多かった。さらに今後は「格安航空券」「LCC利用体験記」「お気に入りの店」など、会員が体験した生の情報がより多く投稿されることを期待します。

運営上においては、コンピューター・ウイルス発生による大きな被害もなく、またML規約違反となる投稿も少なく、問題は少なかった。

今後も南国MLが、楽しく有意義な情報交換の場として活用されるよう期待します。

3) 国内外支部活動関係

①北海道支部

- 1) サロン会&懇親会・4回実施・参加総人数64名
※サロン会特記→・環境に配慮した複合施設見学(7月)
・紅葉の鑑賞と食事会(10月)
- 2) 支部役員会 2回(5月・9月) 参加総人数8名
- 3) その他・親睦ゴルフ 2回(5月、9月) 参加者23名

②東北支部

- 1) サロン会4月実施：参加者7名(内OB会員2名、非会員1名)

③関東甲信越支部

- 1) サロン会&懇親会(6月を除く毎月開催)：11回実施・参加総人数658名
※サロン会特記→・外部スピーカーとして、フィリピン観光省の横山泰彦氏とミクロネシア連邦政府観光局の重野功氏の講演を行った。
- 2) 支部世話役会：サロン会開催時の午前中に支部・サロン会等の運営について打ち合わせ実施
- 3) タイ義肢財団への使用済みストックング収集活動を継続実施した。
- 4) その他：同好の士が集まり、自主的に①テニス、②パソコン勉強会、③下見ツアー、等を活発に行った。

④東海支部

- 1) サロン会(定例会)&懇親会：11回、平日いこみや会10回・計21回実施、参加総人数372名
※サロン会特記→9月神谷美智子様によるクイズタウンセミナーを実施。11月タイ納得セミナーをタイ観光庁大阪事務所の依頼で会場内にブース設営し(一般参加500名超)、会のPR、及び新規会員の勧誘を行った。
- 2) 支部役員会：2回実施(9月・3月)
- 3) 海外下見ツアー関連
・台湾パートⅢを11月に実施。
- 4) その他
・懇親ゴルフコンペ(5月・11月)の2回開催
・5分間1口英会話教室実施：講師は横井保夫氏、山田善一氏。

⑤関西支部

- 1) サロン会(例会)&懇親会：4回開催・参加総人員139名
・女性親睦会(関西ゆりの会)：2回開催(4月・9月) 参加者18名
・支部役員会：4回開催(5月・6月・8月・10月) 参加総人員42名
- 2) フィリピン・ダバオ市下見ツアー：22名参加(2月27日～3月7日)
- 3) その他：ハイキング(11月・10名)・ゴルフコンペ(4月・10月) 参加者14名

⑥九州支部

- 1) サロン会（例会）&懇親会：4回実施 参加総人数101名
 - ・ミニサロン会 3回（熊本市2回、志布志市1回）参加総数 44名
- 2) 支部役員会：4回（内2回はスカイプ会）実施
- 3) その他行事：蕎麦打ち体験試食会2回、栗拾いゴルフバーベキュー&蕎麦打ち、河豚忘年会、チェンマイでの食事会3回（総参加数100名）

⑦マニラ支部

- ・会員数が少ないためサロン会は開催していない。
- ・マニラ訪問、及びバギオ、セブ、ダバオ等訪問への中継地点として、会員支援をしている。

⑧セブ支部

- 1) サロン会：実施なし、ミニサロン会：ほぼ毎月実施
- 2) スターバックスマーティング：ほぼ毎日実施（朝8時～10時ごろ）し、チケット、為替、被害、パソコン、携帯、旅行などの情報交換実施。

⑨バギオ・パンガシナン支部

- 1) サロン会&懇親会：実施なし（バギオ定住の会員の退会でバギオ在住会員がいなくなった為）
- 2) 22年度前半は前年の台風災害復旧の遅れにより、会員の訪問を見合わせて頂いたため会員訪問は例年より大幅減少した。
 - ・後半は、バンガシナ地区に会員の初めてのLSが始まったため、その手伝いを実施した。
 - ・バンガシナ地区の知名度向上のため、メールにより全会員へ生活情報の提供を行った。
- 3) ボランティア活動としては、小学生2名への奨学金提供は卒業で終了、今年度から高校生1名への支援をバンガシナ地区でスタートした。
 - ・5年間継続したバギオでの日系大学生への日本語基礎講習は前年度で終了した。
 - ・バンガシナ地区での小学校6校への各種支援は継続している。

⑩チェンマイ支部

- 1) サロン会&懇親会（4月を除き毎月1回開催）：11回開催、参加総人数508名
- 2) 支部役員会：4回実施、参加総人数21名

⑪クアラルンプール支部

- 1) 食事会：2回（7月、9月）17名参加、会員が少なく定期活動はまだ行っていない。

⑫ペナン支部

- 1) サロン会：2回（9月・1月）参加総人数63名
- 2) 支部役員会：2回（6月・3月）
- 3) 親睦ゴルフコンペ：5回（5月・7月・10月・12月・2月）総参加数60名

⑬ハワイ支部

- 1) サロン会&懇親会：16回・総参加人数112名（2・3月は実施せず）
- 2) 親睦ゴルフコンペ：（6月）開催、参加者6名
- 3) ホノルルマラソン：12月開催、参加者3名：全員完走

⑭ゴールドコースト支部

- 1) サロン会（ミニサロン会含む）&懇親会：3回（総数14～15名）
- 2) その他：知人の安いコンドー紹介、車紹介、レンタル携帯貸し出し等で会員サポート。

4) 広報活動

例年同様、外部からの取材及びマスコミへの掲載協力、さらにホームページNewsの充実を図りました。特に暫定体制のお陰で何とか継続させて頂いておりましたホームページ委員会につきましてはようやく新体制を構築、更なる充実化に向け鋭意努力中でございます。お陰さまで、南の会ホームページは2月21日に11万アクセスを達成！ 100人／日のペースでのアクセスが続いております。関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

3. 会の管理に関する事項

1) 総会関係

平成22年5月30日(日)、正会員353名（うち書面表決者305名）が出席して実施。

2) 理事会関係

平成 21 年度第 6 回理事会：平成 22 年 04 月 11 日、理事 11 名、委任状 6 名・監事 3 名出席。
平成 21 年度第 7 回理事会：平成 22 年 05 月 22 日、理事 15 名、委任状 2 名・監事 2 名出席。
平成 22 年度第 1 回理事会：平成 22 年 06 月 13 日、理事 10 名、委任状 7 名・監事 1 名出席。
平成 22 年度第 2 回理事会：平成 22 年 10 月 03 日、理事 16 名、委任状 1 名・監事 3 名出席。
平成 22 年度第 3 回理事会：平成 22 年 12 月 15 日、理事 12 名、委任状 5 名・監事 1 名出席。
平成 22 年度第 4 回理事会：平成 23 年 03 月 13 日、理事 14 名、委任状 3 名・監事 2 名出席。

3) 役員会・支部長会関係

平成 22 年 5 月 29 日(土)、理事 13 名、支部長 5 名、監事及び相談役が参加して実施。

4) 登記事項 平成 22 年 6 月

理事(就任) : 加藤久子、青木方子、小松勝正、岩井文哉、光城保之、山田美弥子、肥後憲尚
宇田秀樹、永島和雄、長谷川愈晃、高橋眞治、吉野正博、木村秀男

理事(任期満了) : 高田勝弘、渡辺義郎、大野悦子、小林 孝、細田良子、橋本 慧
今野力男、平方 穰、島林健二、中山恒夫、勝本隆文、永田隼人

理事(重任) : 馬場章介、山科滋雄、佐々木一信、大塚眞一

5) 会員動向

平成 21 年からの継続会員数：594 名（内、年度内退会者 10。休会者 1 名 計 11 名）

平成 22 年度新規会員数：59 名

平成 22 年度期末の会員数は合計 642 名でした。

また、平成 23 年 3 月 31 日までに平成 23 年度会費を納入された継続会員は 520 名で会則により平成 23 年度の総会表決権者数は 520 名となりました。

以上

平成22年度 特定非営利活動に係る事業の会計 収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位:円)

科目	予算額 (A)	実績 (B)	差額 (B - A)	摘要
I 収入の部				
(1) 入会金収入	350,000	315,000	△ 35,000	
(2) 会費収入	3,100,000	3,215,000	115,000	会員642名
(3) 資料売収入	100,000	73,000	△ 27,000	73件
(4) 寄付金収入	0	0	0	
(5) 基本金等利息収入	100	2,594	2,494	
(6) 雑収入	0	0	0	
(7) 事業拡張準備金より繰り入れ	0	0	0	繰り入れを行わない
1. 当期収入合計	3,550,100	3,605,594	55,494	
2. 前期繰越	358,353	358,353	0	
3. 収入合計	3,908,453	3,963,947	55,494	1 + 2
II 支出の部				
(1) 事業費	2,726,000	2,275,551	△ 450,449	
① 会報等事業費	1,180,000	912,317	△ 267,683	年3回発行
② 会報等送料費	370,000	315,648	△ 54,352	年3回発行、海外送料費増
③ 資料等製作事業費	85,000	117,422	32,422	
④ 報告書等製作事業費	130,000	117,600	△ 12,400	会員名簿製作
⑤ 案内書製作事業費	200,000	154,875	△ 45,125	「必携」新版製作、役員用はCDで代替
⑥ 広報活動事業費	111,000	67,689	△ 43,311	プロバイダ費用
⑦ 講師等謝礼費	75,000	75,000	0	
⑧ 支部関係事業費	575,000	515,000	△ 60,000	
⑨ 社会貢献事業費	0	0	0	
⑩ NPO認証10周年事業費	0	0	0	
(2) 管理費	578,500	527,061	△ 51,439	
① 事務用品費	15,000	15,914	914	
② 旅費・交通費	495,000	429,468	△ 65,532	
③ 通信運搬費	27,500	35,730	8,230	
④ 雑費	30,000	35,449	5,449	
⑤ 支払い使用料	11,000	10,500	△ 500	インターネット経理使用料
⑥ 裁判関連費用	0	0	0	
(3) 予備費	10,000	0	△ 10,000	
4. 当期支出合計	3,314,500	2,802,612	△ 511,888	(1) + (2) + (3)
5. 当期収支差額	235,600	802,982	567,382	1 - 4
6. 事業拡張準備金へ繰入	0	400,000	400,000	準備金の積み増し
7. 次期繰り越し収支差額	593,953	761,335	167,382	3 - 4 - 6

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成23年4月10日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 鈴木 剛 印

監事 金子 良三 印

監事 高田 勝弘 印

平成２２年度 特定非営利活動に係る事業の会計 貸借対照表

(平成２３年３月３１日現在)

特定非営利活動法人南国暮らしの会

(単位：円)

科 目	金 額		
１．資産の部			
(１) 流動資産			
現金	37,220		
普通預金	399		
郵便貯金	752,644		
郵便振替口座	3,604,172		
定額貯金	1,500,000		
流動資産合計		<u>5,894,435</u>	
資産合計			<u>5,894,435</u>
２．負債の部			
(１) 流動負債			
未払金	13,100		
前受金	2,715,000		
預かり金	5,000		
流動負債合計		<u>2,733,100</u>	
３．正味財産の部			
基本金		300,000	
事業拡張準備金		2,100,000	
次期繰越金		761,335	
正味財産合計		<u>3,161,335</u>	
負債及び正味財産合計			<u>5,894,435</u>

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成２３年４月１０日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 鈴木 剛 印

監事 金子 良三 印

監事 高田 勝弘 印

特定非営利活動法人 南国暮らしの会
理事長 馬場 章介 殿

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人南国暮らしの会の平成22年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)における監事監査に関し、監査の方法及びその結果について協議し、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告します。

1. 監事の監査方法の概要

監事会は予め定めた監査の方針等に従い、理事会その他重要会議に出席し、理事会の運営、理事の業務執行、事業活動及び財産の状況を調査し、必要に応じて理事等から報告を求めました。

2. 監査の結果

- ①事業報告書・役員名簿・社員名簿は、法令及び定款に従い、法人の活動状況を適格かつ適正に示している事を確認しました。
- ②計算書類(収支計算書・貸借対照表・財産目録)は、記載すべき事項を正しく示しており、正確かつ適正であることを確認しました。指摘すべき事項は認められません。
- ③理事その他役員の職務遂行に関する不正行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

平成23年4月10日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

監事	鈴木	剛	印
監事	金子	良三	印
監事	高田	勝弘	印

平成 2 3 年度事業計画書（案）

(平成 2 3 年 4 月 1 日～平成 2 4 年 3 月 31 日)

1. 事業の方針

- * 会報事業は年 3 回(新年号、春季号、夏季号)の発行とする。(会報部会)
- * 電子化(PDF)された会報の閲覧は、従来通り南国 ML の HP にアップする。また希望者には配信する。尚、今後のバックナンバーの保存を CD 化する。(会報部会)
- * 益々盛んになるであろう LS に対し LS 地での会員の良識ある行動を求める為、「必携」の「海外べからず集」を一層会員に周知させる。(必携委員会)
- * HP の一層のレベルアップを推進し、対外的に南の会を広く PR するとともに、会員の為の情報提供に役立つようにする。(HP 委員会)
- * ML の健全な普及啓蒙を目指す。(ML 委員会)
- * 国内支部の組織化を推進し、各支部がサロン会を軸に情報交換会、講演会、下見ツアーなど開催し、会員相互の親睦と研鑽を深める。(支部推進委員会)
- * 上記サロン会等のみならず、同好会活動を通じて、会員間の一層の親睦を計る。更にパソコン教室等を開催して LS に必要な技量アップを図る。(パソコン教室・各同好会等)
- * 国内外支部と連携を密にし、会員のための会運営を推進する。(支部推進委員会)
- * 南の会及び各支部が企画する旅行会、下見ツアー等に対し基本的に会員各自の自己責任であることを周知。(総務部会・支部長会)

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定	実施予定場所・内容	備考
会報製作	会報発行(新年・春・夏)	年 3 回	内容の充実とページ数の固定。カラー検討	会報委員会 編集補助の強化
会報 P D F	バックナンバーの CD 化	随時	閲覧は従来通り CD 有料販売の検討	会報委員会
資料等製作	問合せ・入会者への資料作成送付	随時	事務処理の合理化	会員部会
報告書等製作	会員名簿等の作成 会報・同封資料の作成	年 1 回 随時	緊急資料、必携追加分	会員部会 各部会、必携委員会
	入会案内の作成	随時	(必要に応じて)	会員部会
	細則改訂	随時	理事会	総務部会 必携委員会
広報活動	対外情報の一括管理 HP の管理・メンテナンス ML の管理	常時	HP の合理的運用 ML の適正な運用	広報委員会 HP 委員会 ML 委員会
支部活動支援	国内 6 支部・海外 8 支部に補助金等支給	随時	各支部との交流促進 海外支部の支援強化	支部推進委員会
	支部単位でサロン会・同好会等の実施	随時	適時人事交流 パソコン教室の拡大	支部推進委員会 支部役員・会幹事
	支部長会(役員会共催)	1 回/年	東京	国内支部長
通常総会	総会開催	1 回/年	東京	理事長 総務部会
理事会	理事会の開催	6 回/年	東京	理事 監事

(2) 収益事業：なし

平成23年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書案

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位：円)

科 目	前年度 予算額 (A)	本年度 予算額 (B)	差異 (B-A)	摘 要
I. 収入の部				
1) 入会金収入	350,000	300,000	▲ 50,000	入会金：5,000円、想定新規入会者数60名 (前年実績63名)
2) 会費収入	3,100,000	2,950,000	▲ 150,000	想定継続会員数530名(継続率85%) 新規入会60名想定
3) 資料売収入	100,000	60,000	▲ 40,000	60名想定、前年実績73名
4) 寄付金収入	0	0	0	
5) 基本金等利息収入	100	100	0	
6) 雑収入	0	0	0	名刺印刷廃止
7) 事業拡張準備金より繰入	0	0	0	
1. 当期収入合計	3,550,100	3,310,100	▲ 240,000	
2. 前期繰越	358,353	761,335	402,982	前年度決算での繰越額
3. 収入合計	3,908,453	4,071,435	162,982	1. + 2.
II. 支出の部				
1) 事業費	2,726,000	2,565,000	▲ 161,000	
①会報等事業費	1,180,000	1,140,000	▲ 40,000	年3回発行会報制作費、文具代
②会報等送料費	370,000	390,000	20,000	メール便、海外送料費
③資料等製作事業費	85,000	120,000	35,000	入会者向け資料、会員証、送料代等
④報告書等製作事業費	130,000	130,000	0	会員名簿
⑤案内書製作事業費	200,000	0	▲ 200,000	入会案内増刷(在庫無くなった時)
⑥広報活動事業費	111,000	135,000	24,000	プロバイダー会費、ML運用費
⑦講師等謝礼費	75,000	75,000	0	
⑧支部関係事業費	575,000	575,000	0	支部補助費、支部交流、甲信越統合
⑨社会貢献事業費	0	0	0	
2) 管理費	578,500	666,000	87,500	
①事務用品費	15,000	15,000	0	
②旅費・交通費	495,000	495,000	0	役員・支部長会経費
③通信運搬費	27,500	90,000	62,500	
④雑費	30,000	55,000	25,000	
⑤支払使用料	11,000	11,000	0	ネット会計使用料
3) 予備費	10,000	10,000	0	
4. 当期支出合計	3,314,500	3,241,000	▲ 73,500	1) + 2) + 3)
5. 当期収支差額	235,600	69,100	▲ 166,500	1. - 4.
6. 次期繰越収支差額	593,953	830,435	236,482	3. - 4.

注1. 会員数合計590名を想定しており、この増減により収入・経費も大きく増減するので、期央において予算の見通しを検討し、健全な運営に努める。

元理事長 酒匂景輝氏の逝去を悼む

訃 報

相談役 元理事長 №24 酒匂 景輝様 は病氣療養中のところ2月5日に逝去されました。享年78歳。酒匂様は会の実質創設者で、熱い情熱をもって会の発展に貢献され、晩年はご夫妻でチェンマイ滞在を楽しまれ訪問した会員に温かくお付き合いをしていただきました。

ご冥福をお祈り申し上げます。



合 掌

酒匂さんの逝去を悼む

理事長 №732 馬場 章介

酒匂さん、有難うございました、安らかにお休みください。

私が思い出に残る酒匂さんは本当にこの会の会員らしい方でした。東京でサロン会や理事会でお会いする時は周囲の人々とフレンドリーに優しく穏やかにお話なさる方でした。

そして私が始めてチェンマイにLSした時には東京でお会いした時とまったく変わらず接していただき、初めての訪問だと言うことで一緒に食事したり、買い物に行ってくださいたり、当地の情報を親切にいろいろ教えていただきました。宿泊場所も一緒だということもあり毎日のように顔を合わせましたがいつも穏やかで退職後の人生を奥様とロングステイをされて楽しんでいらっしゃる姿は今でも目に焼きついています。LSに不慣れな自分には大変お手本になりました。南の会に入会して酒匂さんと出会えたことは大きな喜びに感じております。

会の理事長としてボランティア精神を発揮され会の運営にご苦勞されている時期も酒匂さんのスタンスはまったく変わりなく周囲の人に穏やかで安心感を与えてくれるお人柄でした。

お亡くなりになられ大変残念ではありますが会の創立、発展に多大なる功績を残され多くの

会員方々から慕われていた酒匂さんに感謝を申し上げ、そしてご冥福をお祈り申し上げます。

元理事長酒匂景輝大先輩を悼む

相談役 №163 宮寄 哲郎

本年2月5日夕刻元理事長酒匂さんがご逝去されました。お亡くなりになったその夜いち早くご連絡を頂きましたが、一瞬何かの間違いではないかと耳を疑いました。一週間前の手術が成功し、回復へ向かったとお聞きしており、お見舞いに伺おうとしていた矢先です。呆然としながらも、直ぐに身近な会員の方へお知らせをしました。その会話中、親しくかつ頼りにしていた方を失った喪失感に、涙が出てまいりました。

あれから早2ヶ月弱過ぎましたが、薩摩訛りで「酒匂で一す。」というあの独特のイントネーションが、もはや聞けない寂しさと悲しさを未だに感じております。

「南の会」に入会以来、11年以上の深く永いお付き合いの酒匂さんは私にとって何でも相談できる「師」であり、「先輩」であり、そして会の運営等に於いてはその発展の為に共にいる「戦友」という存在でした。入会当初、フィリッピンの竹内会長（創立者）宅体験訪問の手配を、当時事務局長であった酒匂さんにして頂いたことがご縁でお付き合いが始まりました。

そのとき、酒匂さんから本当に懇切丁寧な対応をして頂き、その好印象から「南の会」の入会はベストの選択であったと確信。第二の人生をこの会と共に歩もうと決心しました。

寒さが嫌いな同氏は定年後、ハワイの土地を購入されロングステイ（L S）を目指すなど、早い時期から暖かな「南国で暮らす」ことを夢見ておられました。あるとき、ラジオで竹内会長と竹村健一氏とロングステイに関する対談を偶然視聴していた事がきっかけで（会報VOL46,50号をご参照下さい）お仲間と会を立ち上げられました。その当時、持ち前の誠実さとエンジニア出身の綿密、正確な頭脳と猛烈なバイタリティーで会計、総務、広報、会報発行をほとんど一人でこなされていたようですが、その能力と頑張りには驚きを禁じ得ません。

「南の会」はその後順調に育ち、NPO法人として社会的認知を得て会員も大幅に増加しましたが、酒匂さんは残念ながらその途中、重い血液の病いに冒されました。しかし、それを克服され、平成16年2代目の理事長にご就任、生活の殆どをお役目に費やし、会をより一層の発展へと導き大変な貢献をされました。

現在、「南の会」は数あるL S団体のトップに位置する立派な会になりましたが、もしも酒匂さんと創立者竹内会長との偶然の出会いのチャンスが無く、且つ会の成立と発展への同氏の必死の努力が無かったならば、「南国暮らしの会」は存在しなかったでしょう。さらに、会員の方々がそれぞれの滞在地でロングステイを現在のようにエンジョイすることも出来なかったでしょう。そういう見地から、酒匂さんは会にとって最大の功労者であり貢献者でした。会員の皆様には、今自分が楽しめるのはこうした先人が存在したからこそだと言う事を是非知って頂きたいと思います。

省みれば、酒匂氏は会員の皆様のお世話をするだけで、ご本人が自分だけで楽しむ時間がなく、会の創立から理事長役を終えるまで約10年間、短期のL S地探しの旅はあったようですが殆どお世話役ばかりでした。私が同氏から理事長継承の打診を受けた時、自己犠牲と苦

労ばかりするこの役目だけは受けたくなかったのですが、難しい健康問題を抱えた酒匂さんのご苦勞に報い、僥越ながらご本人の楽しい「L Sの夢」を実現させてあげなければとの強い思いでお引き受け致しました。

同氏には理事長退任後お亡くなりなるまで約5年間弱の時間がありましたが、その間約3年間は大変不都合な時間があり、晴れ晴れとした、憂いの無い楽しい充実した時間を「愛するチェンマイ」で過ごすことが出来たのは無情にもわずか2年間という短い間でした。もう少し永く楽しんで頂きたかった云う痛恨の思いで一杯です。

「チェンマイ」という理想の地を見つけそこへ到達するまでには、ハワイ、ダバオ、ペナン、ホアヒン、などを探し歩き、ついにチェンマイという最適地を見つけられました。その誠実で徳のあるお人柄故に、多くの会員の方々に囲まれ、常宿のアマリリンカムホテルで酒匂さん流「スローライフ」をエンジョイされました。特筆すべきは、チェンマイで「ご夫婦の金婚式」「喜寿」の為に多くの会員が集まりお祝いしたことです。このことは如何に皆さんに愛されていたかの証左だと思います。このようなことは恐らく「南の会」においては今後二度と無いことでしょう。

生前、常々酒匂さんは「この会があったから退職後も元気で生活ができたんだよ。」と言われていたそうです。

私はこの素晴らしい方との出会いと、人生の後半において身近なお付き合いできたことを大変幸せに思うと共にこれこそが会のコンセプトである「友達作り」の真髄ではないかと思います。

今年の7月には酒匂さんがこよなく愛したピン川への散骨とご供養のため、愛妻の愛子様がチェンマイを訪ねられるそうです。お別れの日には奥様が酒匂さんに贈られた「大きな夢を貫くことが出来て幸せな人生でしたね。」という哀悼の言葉と共に、そこで安らかに眠りなれんことを願い、ここに心からご冥福をお祈り申し上げます次第です。

合掌

故酒匂氏を偲んで

関西支部 №558 伊澤 豊

☆天国で、いかにおわす酒匂様

この原稿を書いている只今は3月20日。

元理事長・酒匂氏が永眠されたのは2月5日、月日が経つのは速いもので、あれから早やひと月以上経ちました。そんなこの時期、酒匂氏との出会い等もろもろの事が、走馬灯の如く思い浮かんでまいります。

☆カリブ海クルーズで

去る2003年11月のこと「カリブ海クルーズ」がありました。主催のワールドステイクラブからの呼びかけで、わが南の会からも大勢参加しました。このクルーズ船に乗るには、各自でアメリカはフロリダまで行く必要があります、日本からユナイテッド航空を利用したわけですが、そのユナイテッド航空のマイレージをうまく貯める方法について、世話好きで研究好きの酒匂氏が参加者に熱心に情報を流してくれたものです。クルーズ参加者の中には、酒匂夫妻を筆頭に当時の木村ペナン支部長夫妻・鈴木チェンマイ支部長夫妻など南の会の発展に携わったそうそうたる方達がおおり、みんな和気あいあいと楽しく過ごしたものです。

☆名うてのおしどり夫婦

酒匂夫妻は無類の‘おしどり夫婦’で、常に行動はご一緒。奥様は上品で和服姿がとてもお似合い、ご主人の酒匂氏は奥様のその装いが大変お気に召していたようで、いつもニコニコと

夫人に寄り添い、サポートしていたのが大変印象的でした。

☆氏より支部長委嘱状を拝受

年明けて2004年のこと、引退した前チェンマイ支部長・鈴木氏の後を私伊澤が引き継ぐことになり、4月1日付けで当時の理事長・酒匂氏より委嘱状を拝受しました。以後数年間チェンマイ支部長を務めさせて頂きましたが、その間大過なく務めを果たす事が出来たのも氏のサポートのお陰だと、今も深く感謝しているところであります。

☆氏は無類のチェンマイ好き

知る人ぞ知るで、酒匂氏のチェンマイ好きは有名で、毎年奥様を伴い訪チェすると、きまってアマリリンカムホテルに投宿、2～3か月滞在するのが常でした。氏はゴルフはやりませんでしたが探究心が強いお方だけあり足を使っのての情報集めにご熱心で、チェンマイの‘医療情報’や‘食べ処紹介’などは逸品だったと記憶しています。‘食べ処’の中でも最たる物は大衆的なところで「ムラキ食堂」・高級な処では「カオマン カオファン」と言ったところでしょうか。

∴氏は去る2月5日に逝去されましたが、昨年8月には大好きなチェンマイで「喜寿の祝い」をしたことでもあり、悔いはないものと思います。よって、今頃は「千の風」になってチェンマイの空を喜々として飛び回っているのではないのでしょうか。

鼎談 ロングステイの魅力について

橋本 慧 (関東甲信越支部 No. 465)
松本 都志重 (関西支部 No. 754)
永島 和雄 (関東甲信越支部 No.1161)

発見と刺激。非日常性

松本 私はロングステイをしようと思っただけでなかったんですよ。まったく選択肢には無かったですね。偶々、友人に誘われて付いて海外へ行ったことが、そもそものきっかけです。

ですから、最初は人の過ごし方を見よう見まねで始めたんですね。始めてみると、それが凄く性に合っていて面白くなり嵌まってしまって・・・

永島 僕の場合は、以前からアメリカン・ドリームと言う考え方なんです。米国人は20歳代か30歳代に起業し、発展させて大きな会社にして、40歳代半ばには売払って、後は自分の好きなことをして過ごすという夢があります。僕も仕事で米国社会と付き合いが多かったので、彼等はサラリーマンをやっている、それに近い夢・考え方を持っていると思うんです。

そういう考え方を見聞きしていて、自分も同じような生き方が出来れば良いと思いました。只、残念ながら夢を十分に実現できる資産は無いので、定年になったら自分の好きな生き方をするにはどうすれば良いかを50歳代の頃から考えてきました。

例えば、当時ロングステイでハワイとかスペインという話もありましたし、そういう意味では定年になってロングステイをして、自分のやりたかった自分の生き方・生活の仕方をやってみたいという気持ちが強かったですね。

松本 私はチェンマイへ行くと、次はハワイ、ニュージーランド、オーストラリア、マレーシア等へ行くようになりました。何処でも大体一ヶ月位のステイですが、日本に居る時と違って、ロングステイは言葉も文化も違うし、物価もそれぞれ違う、現地で付き合う人達との交流を含めて発見ばかり。大変な刺激で一ヶ月があっという間に過ぎていく感じです。毎日の生活に変化がありボーッとしている間がない

ですね。

橋本 ロングステイで何故、海外へ行くかという日本では生活するのは違った非日常性と言うことが先ず挙げられると思います。刺激的であったり好奇心を満足させてくれたりとか。そして「冬場」ね！日本に居ると冬は運動量が少なくなるでしょう。私の所は山梨県だから春から秋は畑仕事など結構、身体を動かしてやることのあるんです。処が冬になるとコタツに入ってテレビを見るスタイルになってしまうから、その時期にチェンマイに行けばゴルフなどして一日に10km近くは歩いている訳だから、一年を通してよい健康状態を保てるということがロングステイの大きな理由ですね。



橋本氏

永島 やっぱり暖かい所って違いますよね。気候的に外に出やすい。日本で住んでいる時の人間関係のしがらみがありません。それと金銭的に安いことで外に出掛けることに何のこだわりもない。出掛けることに躊躇もないので壁になりませんし、直ぐ行動に移せるので余計なストレスがありません。

橋本 ロングステイを楽しめる条件を挙げると、肉親から自由になれるという条件が揃っていないとね。

親の面倒を見ると色々なケースがあるから・・・、それとやっぱり経済的な条件だろうね。私も過ってスペインのコスタデルソルとかハワイなど考えましたが、コスタデルソルといってもスペインがEUに加盟してしまっていると滞在費の安さという魅力が無くなってしまいました。もうとても我々の年金をベースにした経済レベルでは生活を楽しむことは難しくなっていました。そうすると身近な東南アジアにロングステイ先が絞られてきます。

お金のことを気にしながら楽しむことは出来ません。楽しむという事は余りお金のことを気にしなくても大丈夫ということだからね。

松本 全くそうですね。私の妻はアメリカやヨーロッパに行くことが夢だったので私も妻の企画に乗って出掛けることが多かったですね。妻は学生の頃から英語を勉強していて、外国人と会話をして交流したいということで、ロングステイは妻の方が積極的でした。お陰でロングステイすることに慣れてきました。最初の頃は関空に行くだけでおっくうだったのが、今は隣の国にちょっと出掛けてくるという感じになりました。現地の人から声を掛けられ、徐々に付き合いの輪が広がってコミュニケーションが取れるようになると、彼等が日本をどう見ているかなど面白いですね。



永島氏

チェンマイは経済的で気候が良い

永島 ロングステイを実際にやってみると、ロングステイの定義って難しいですね。ロングステイという言葉が使われるようになって18年経つそうですが、南の会の会員の多くはロングステイでは無いと

思うんです。まあ、ミドルステイかな、適当にステイを楽しんでいる。僕も南の会的な考え方で二ヶ月から三ヶ月位で、チェンマイで過ごしたりしています。チェンマイは気候、治安、食事のほかに経済的に安くて済むし、遊びでもゴルフ、テニス、卓球なども出来るので、此処に長く居て後は一ヶ月位で他の所も行ければ良いと思っています。ツアー旅行にも参加して世界のあちこちを楽しみたい。

橋本 ロングステイへの行動を起したきっかけは多種多様だと思うんです。例えば、現役の時代に仕事上、海外勤務とか海外経験があった人もいるでしょう。退職したので暇になったのでインターネットをやる時間が増えて面白い情報が目に付くようになる。面白そうだということで、チャレンジしてみようとした人も居るでしょう。ゴルフがとにかく飯より好きだという人も居るでしょう。ロングステイをする人が行動を起すきっかけは様々ですね。

永島 定年になってから世界三大瀑布を見に行くような、ロングステイが目的ではなくて、自分がやりたいけどやれなかったことをするというアメリカンドリーム的な考え方に共感し、60歳以降は自分の時間があるのだからチャレンジしたいという気持ちがあります。そして、海外旅行を経験するなかでロングステイをしてもっと楽しみたいと思うようになりました。

橋本 海外でロングステイを楽しむ南の会の会員は年々多くなっているけど、今居るチェンマイもロングステイを楽しませてくれる条件に恵まれていますね。何よりライフコストである物価、交通手段、治安、気候などが良い。自分達の趣味を経済的に楽しめる色々な方法があり、食生活も比較的無理なくタイ料理にも馴染めますね。日本食レストランがタイの人にも受け入れられて店の数も増えているし、タイ人のお客さんも多くなりました。

また、近隣諸国へ行き易くて足場としては好条件があります。三大瀑布には遠いけど！代わりにアンコールワット、ボロブドール、チャンパなど行くところに事欠きません。

永島 私もロングステイを初めて四年になり、今のところまあまあ目指していた生活が出来ているのですが、お金があればハワイが良いな—と思っています。「海がある」というのは大きな魅力の一つですよ

ね！海があって暖かくて治安が良くて食べ物が美味しくくて、更にゴルフも楽しめる。しかし、高いのと暑いので長期は無理かなと・・・

その点からするとチェンマイは満足できる度合いがかなり高いと思っています。

橋本 それと何よりチェンマイの良さは冬場の気候だろうね。夏場も快適だけれど・・・永島さんが海という言い方をしたけど、ここには海は無いけれど快適な場所ですね。

永島 今でも妻は国内のほうが良いと思っています。妻は子供を育て地域社会に確固とした足場を築いている。生活のバックボーンを持っているわけです。親族や友達などの交流を楽しみながら生活することは何の痛痒も無いわけです。日本に住んでいるのが安心で居心地が良いと思います。片や、我々サラリーマン族は会社を定年退職して家に居るようになって居場所が無いんですね。地域社会との関わりも無い！じっと家で逼塞しているよりも、それだったらもっと違ったところで自分のやりたいことをやれるところに行った方が良いでしょう。そこに夫と妻の立場の違いがありますね。

日本に居ると行く場所が私には無いんです。スーパーに行く位でゴルフは料金が高いので、多く行けても週に一回程度しか行けません。週一のゴルフでもかなりお金が掛かります。そうそうは行けない、そうすると家から出る機会が凄く減りますよね。段々、濡れ落ち葉になってします。

松本 確かに、「何か趣味を！」といってもこれまでやっていないことを無理にやっても楽しくないですね、長続きしません。

永島 それよりもチェンマイでもハワイでも、どこか暖かい海外へ行った方が楽しい。何かやるにもそれほどお金も掛からない。

日本に居ると結局飽きて来るのと何もしない生活を過ごして良いのかと思う。ロングステイも一ヶ月は良いけど二ヶ月過ぎると飽きが来るという習性が私にはあります。三ヶ月経ったら、小旅行等でアクセントを付けないと飽きてくる。これは何処でも同じことだと思うけど、例えばチェンマイに居ても二ヶ月位でペナンとかKLとか国外へ一週間位行ってくる。そういうのを入れていかないと飽きちゃうんですね。

退職後の楽しみ方

橋本 定年退職後の自分なりの楽しみ方で国内か海外かの選択だけど、私は現役時代から60歳代は海外で70歳代は国内という風にイメージしてきました。処が70歳が目前に迫ってくる年齢になって、後5年位は延長しても大丈夫かと思うようになりました。永島 60歳代で海外、70歳代で国内温泉巡り、それが此処に来ているとお元気な方が多くて、そうでなくなる。

橋本 ソーソーソー

永島 少し計画を変えなくちゃいけない。

橋本 その通り！75歳までは海外！まあ75歳過ぎたら国内に軸足を移そうかと・・・

考えてみると、我々は丁度良い時代に退職を迎えて自由の身になったから、このように海外生活を楽しめるのであって、これからの10年経ったらとか先を考えると難しいね。

松本 50歳過ぎの現職に時間格差だと言われたけど、格差社会の時間軸の問題で確かに恵まれた時代に生活を楽しませて貰ってますね。

橋本 円高と通貨の交換比率、その国の経済レベルの違いによる物価の安さが大きいです。アジアの国の成長が高くなれば物価も上がります。それに引き換え日本は少子高齢化と借金でこの先の円の実力は予測不可能ですが、我々が定年を迎えた時に円が強く年金もそれなりに貰えるという環境はロングステイの大きな支援材料ですね。老後を迎えた時に、偶々このような状況に恵まれていたことに感謝しますね。又、この恵まれた環境を活かさないと・・・永島 ロングステイで何をしたいのかを持っていないとロングステイ先に行って困ることになります。ただ来てもどうしたらいいんでしょうと言うことになっちゃう。ロングステイ先で自分が何をしたいか、目的をはっきりさせて来ることは大事ですね。

やりたいことは人によって様々ですから何でも良いんです。ゴルフをやる人は多いですね！女性は卓球をやる人が増えていますが、他のスポーツをする選択肢も広がっています。

橋本 皆それぞれの現職時代に自分の持ち時間をどう使うかは、余り苦勞なく過ごして来たことと思います。それが定年になって仕事から解放され自由になった時に、多くの人が朝起きて何をしようかとい

う現実に陥るじゃない！

永島 今日は会社へ行かなくて良い！明日も行かなくて良い！

橋本 そういう日々の連続が精神衛生上、まことに宜しくない！それが海外へ来ていると、新しい視界の中で気持ちをリセットして挑戦しようかというものが見つかるかもしれない。そのことは国内でも一緒ではあるけれど、リセットのしやすさは海外の方がしやすいと思う。

私が退職した時に11人いた仲間のうち、私だけが再就職しなかった。明日から自由です。処が他の10人の多くは自由になって何をして良いか分からないから再就職するんです。これが再就職を選択する理由の多いパターンですね。

松本 趣味など何か目的を持っているのでないと、退職後の生活がイメージ出来ないでしょうね。

橋本 後輩から退職が近くなると相談されることがあります。「先輩！辞めた後、どうしたら良いか？」と言われる。「朝起きて、新聞読み終わったら何しようかなという日々の連続は辛いよ！」と言う。アクティブに動ける人には色々とアドバイスするが、そうでない人には再就職を勧めますね。自分で何かを切り拓こうという人は相談なんかに来ない。

永島 働くのはなかなか大変だよ。身体は元気だけれど、3歩も歩くと何をするか忘れる。段々、年齢を感じることが多くなるけど、身体が元気なら未だ出来ることもある。

松本 私はDIYが好きで創りたい物はあるんだけど寒いのが苦手！だから、布団から出られないというのは辛いね！ロングステイと言う場を与えて喜んでいきます。次は、花粉の時期に入ってくると、毎年チェンマイの次はマレーシア、ハワイに逃げるというパターンで過ごしています。自分はそれほど何しようかと困る方ではないですね。

だから、むしろ自分はボーッとしたい方なんです。変な話なんですけど、明日がゴルフだなーと思うとしんどいですよ。明日、ゴルフが無いとほっとする時が多かったですね。

予定が無いという和前の晩のんびりしますね。

永島 何か予定が無いと予定を作りたくなる。予定が詰まっていないと寂しい。スケジュールが無いと不安な人も多いですけど・・・

松本 家の妻はそれですね！何かと急き立てる。じっとしていると何かさせようとする。どうぞ自由にさせて下さい。

チェンマイに来ている人も朝から晩まで動いていないと楽しめないと思うとしんどいと思いますね。欧米人のようにプールサイドで日光浴しながら、本を読んだり、昼寝をしたりは日本人には向かないかもしれませんが、何よりも暖かいのが良いですね、人生の至福ですね。

橋本 ロングステイを始めて2・3年と、ある程度経験を積んでくると腰の落ち着け方も時間の過ごし方も変わってきます。

永島 のんびり出来るというのは貴重なんですね。家の中でコタツに入っているのんびりするのじゃなくて、それこそプールサイドでのんびり出来るとか、公園の暖かい所でのんびり出来るのは良いですね。

橋本 年中！

永島 朝から晩まで自由ですから・・・。息子とか家族からうじゃうじゃ言われることも無いし。



松本氏

女性も家事から解放

橋本 主婦は日常の買い物、三度三度の食事の用意、家の掃除など一日の仕事が沢山ありますが、ロングステイで此処に来ると食事を作ってもそんなに時間は掛からないし、キッチンも小さいから歩く距離も2・3歩で済む。妻を見ているとこんなに読書好きだったかと思う位、本を読めるわけ。これは女性にとっても大きなメリットだね。

永島 コンドミニウムは狭いし、庭も無いし、余計な雑用がありませんね。

外食が安くて自炊するより安上がりになりますし、
そういう点から女性は助かりますね。

松本 女性から見ても家事労働から解放されるというのもロングステイの大きな魅力じゃないですか。
特に、タイなどは外食が盛んな所ですから、その点でも良い所ですね。

ハワイやオーストラリアなどは外食費が高いので、
ロングステイで外食はしんどいでしょうね。

橋本 食生活から考えると安くて美味しいと言えます。
思います。更に、タイの場合は治安の面でも良いけれど
気質、これが特にチェンマイでは凄く良いと思うね。
周辺国の中では「こすからい」「付きまとわれる」
など煩わしいことがある。そういうことがチェンマイ
では無い。そのような点でメンタリティが我々に凄く合う
という気がします。

永島 やっぱり柔らかい、のんびりしてる。周辺国
の中で貧しい人が住んでいる所などに行くと見るからに
怖いですね。顔つきが、そういう点からもタイは安全で
暮らしやすいと感じます。

橋本 確かに、タイは犬からして穏やかだね！

永島 偶に怖いのもいるけど・・・(笑)

橋本 ゴルフをしててハーフを回ると、バナナや菓子等
をどうぞ何てくれる国は無いと思うよ！

永島 バナナとお菓子は此処だけじゃないですか。
他は無いですね。

橋本 人間との関わりの中で嫌な思いをすることは
本当に無いね。

永島 嫌なことは日本人社会とは有ってもタイ人との
間では聞きませんね。マイペンライで済まされてしま
うことはあるけど・・・(笑)

ロングステイヤーは変人？

処で、ロングステイをしてみようと思って出掛けて
行くのは一つの大きな決断ですね。

それと自分の周りの状況が整わないと出れないと思
うんですよ。

ただ出掛ける人って、どこか「変わってる！」(爆笑)。
何時も言うんですけど、やっぱりある種の壁を越え
ないと中々出来ません。勿論、親・兄弟・子供等
のしがらみもクリアしなければ出掛けられません。
そういうのが無くても一つの山を越えるのは大変だ
と思います。先程の話で海外駐在・経験されていた人
は、そんなに壁は無いと思いますが、そうでない人

はやっぱり大変だと思います。

松本 ご近所も変人やと思ってますね。これ程、海
外暮らしがテレビなどで放映されているにも関わら
ず、海外で生活したい人は変わってる人と見ている
風です。近所の人々の雰囲気からそう感じます。知ら
ない人から声を掛けられることも多いです。「何で知
っとんや、どうして？」と聞くと「車にカバーかけ
られていますから。今度は何時ですか？」何か変人
を見る目で見ていているような感じはあります。まだ
まだ変わった人じゃないですか。

永島 海外ツアー旅行に行くのは普通で、其処を超
えると変人ですよ。何で其処までして行きたいの！

松本 「何でそこまでして！」と言う感覚ですね。

橋本 南の会は首都圏の会員が多いけど、山梨から
は私一人でしょう。これは変わっていると言う形容
は仕方ないね。謹んで甘受します！

永島 ロングステイされている方でも奥さんが来ら
れない方が沢山いるじゃないですか。ヨーロッパや
アメリカなど文化程度が高い国なら行くけれど東南
アジアは嫌いだと・・・

松本 それは実際ありますね。偏見ですかね。

橋本 そこで生活をしたり生活もどきをする、多
分、アメリカやヨーロッパの方が生活していくプレ
ッシャーが多いと思うよ。むしろチェンマイの方が
ストレス無く楽に生活出来るのじゃないかな。

永島 生活するなら欧米で生活してみたいというの
は当然ありますね。それに引き換え東南アジアは「何
で暑い汚らしい所に私が行かなければいけないの？」
これはちょっと言い過ぎにしても、東南アジアに行
ってみたいという夢が有る人は少ないかも・・・

松本 私は特別な人は除いて、チェンマイでロング
ステイをしている人は、経済的な条件は同じような
レベルだと思います。そして、この風土、生活に憧
れて来た人達だと思います。自分が過ごしたいよう
に過ごせば良いと思います。但し、タイの人に迷惑
掛けること無く、又、日本人の矜持を持って欲しい
ですね。

これからのロングステイ

橋本 折角、日本を離れてロングステイを楽しんで
いるのですから、近隣諸国への小旅行も良いよね。
私はアンコールワットへ汽車で行きましたが・・・

永島 汽車で行ったんですか？

橋本 バンコクからカンボジアとの国境の町アランヤプラティットまで、汽車に乗って行きました。初めてチェンマイに来た時は一週間後にマレー鉄道に乗ろうということで、バンコクからマレーシアのイポーまで行きました。このような旅行もロングステイを始めて2・3年だったと思います。今なら面倒くさい！（笑）

永島 飛行機で行った方が早い！

橋本 私はツアーで行くのは好きでないので、やっぱりホテルをネットで予約しバウチャーをプリントアウトして持って行く、これが遥かに経済的で且つ旅の面白さがあります。

松本 まあ、そのエネルギー、行ってみよう、行ってみよう、気合が何時まで続くか。私も70歳を超えて、段々にパワーが落ちてきました。果たして、汽車でイポーまでいけるかしら、気力があるか？

橋本 否！、松本さん75才までを目標に頑張りましたよ！

永島 先輩方を見ていると本当に体調が悪くなるまでは、ロングステイしながら色々な楽しみを实践出来ると思います。チェンマイは気候的にも身体に優しいし、医療機関も揃っていますから安心して過ごせますね。

そういう意味では年齢制限というのは無いのかな。自分が何処かで決めてソロソロ良いかなと思うときがロングステイ卒業の年齢なのかという気がします。

松本 人から言われるものではないので、自分で決めたら宜しい。

橋本 自分で区切りを付けることですね。

永島 後は、何歳になるまでに何をするかを決め、生活する過程で諸条件を考えながら自己責任で修正し、先延ばしするだけの話ですね。

その場合、余りロングステイを先延ばしすると、国内での温泉巡りをする時間が無くなるのが問題かも・・・

松本 ロングステイも楽しみながら、国内旅行を楽しんでいる人も多くおりますね。冬はチェンマイ、ペナン、セブなどにロングステイ。夏はキャンピングカーで温泉巡りしながら、北海道から南下し、九

州・沖縄までなど、楽しみ方は多様で人それぞれの楽しみ方があって良いと思います。

北海道では短期滞在者向けの賃貸住宅の斡旋を利用した体験談が会報にも載ってました。

橋本 各支部の会員が国内でも旅行等を通じて交流があるのも南の会の良さですね。私は庭が雑草に埋もれてしまうので近くしか行けませんが・・・

松本 家売って駅近くのマンションを買って残ったお金でロングステイを楽しむ人もいます。徐々に、身辺整理をしながらというのもこれから増えるのでしょうか。

永島 南の会は利用価値があると言うと語弊がありますが、南の会は良い会ですね！

ハワイに行っても、KL・ペナン・セブなどへ行っても、支部でお世話してくれる。何はともあれロングステイの導入部はそれほど難しくなく入れる。これが全く無いと仮定した場合、自分でやるのは大変です。

南の会は面倒見が良いから、何かと相談に乗ってくれる人がいる。これだけ面倒見の良い会は他にありませんね。

橋本 この会が発足した時の助走段階で運営・音頭を取って作り上げてくれた人達が上手く立ち上げてくれたからです。新会員が各支部のサロン会に参加しても、直ぐに旧知の間柄のように溶け込めるのは、南の会の先輩諸氏の人柄だと思います。

松本 私はその人達への感謝の気持ちが大切だと思うのです。そのお礼・お返しを忘れてはいけないと思います。



データから見た長～い人生

会報部会

日本人男性の平均寿命は80歳(79.59歳を四捨五入)です。60歳の男性の余命は80歳－60歳＝20歳になるでしょうか？

平均寿命は、生まれたばかりの子供が何もなければ、ここまで生きられたであろうと予測された年月のことです。

戦後、平均寿命は延び続けて世界に冠たる長寿国になっています。

◎男性が5年刻みに平均寿命が延びたデータ

平均寿命の推移表		
年 号	男	女
昭和 23 年	55.60 歳	59.40 歳
昭和 26 年	60.80 歳	64.90 歳
昭和 34 年	65.21 歳	69.88 歳
昭和 46 年	70.17 歳	75.58 歳
昭和 61 年	75.23 歳	80.93 歳
平成 21 年	79.59 歳	86.44 歳

上記のデータから、昭和23年から3年で平均寿命が5年伸びています。その後は平均寿命が5年延びるのには8年、12年、15年、23年かけて延び続け、今は80歳です。急速に進む高齢化社会が裏づけられます。

私たちは定年後の人生を過ごす時間が沢山あるということになります。

平均余命とは、「ある年齢の人があと何年生きるか」で、厚生労働省が毎年「簡易生命表」としてデータを公表しています。簡易生命表によりますと、60歳の人の平均余命は男性23歳、女性28歳です。

最初の問いの答えは23歳が正解となります。つまり、平均寿命から計算した20年よりも3年長生きできそうだということです。

◎平均余命表です。

年 齢	男	女
	平均余命 年 数	平均余命 年 数
60 歳	23 年	28 年
61 歳	22 年	28 年
62 歳	21 年	27 年
63 歳	20 年	26 年
64 歳	20 年	25 年
65 歳	19 年	24 年
66 歳	18 年	23 年
67 歳	17 年	22 年
68 歳	17 年	21 年
69 歳	16 年	20 年
70 歳	15 年	20 年
71 歳	14 年	19 年
72 歳	14 年	18 年
73 歳	13 年	17 年
74 歳	12 年	16 年
75 歳	12 年	15 年

「第21回生命表」

更に、健康で生活できる残りの年数のことを「健康余命」と言います。自立した状態で健康に暮らせる期間を示す指標です。このことから、一人ひとりが自分の健康を自分で守るノウハウを身に付けることが必要になります。運動や食事を含めた生活の中で、そのノウハウを活かし習慣化することです。その意味では、精神的にも肉体的にも良い刺激となるようなロングステイは素晴らしいことです。

世界保健機関（WHO）が発表した2010年版「世界保健統計」には、2008年時点の日本人の健康余命は76歳で単独一位でした。

100歳以上の長生きの人は昭和38年に153人でした。昭和56年に1072人と4桁になり、平成10年に10,158人と5桁になりました。そして平成22年に44,449人となり、その内訳は女性が86.8%を占めています。

初めてのロングステイ

パスタ デ ソンテウ

関東甲信越支部 №1418 川原 千里

① なぜ チェンマイ

私の場合海外ステイの最大の目的は避寒である。一つ歳をとるごとに日本の冬の寒さと乾燥のダメージが大きくなってきていると感じている。贅沢は言わない、どこか暖かい所に逃げ出したい。毎年冬が近くなると悩ましい日々である。「南の会」入会の動機もこれにつける。

その南の会から聞こえてくる情報は「チェンマイは日中は暑いけれど朝夕は涼しい」、「食べ物はいまい」、「住居費はハワイの半分以下で十分」、それに「南の会のメンバーが大勢滞在していて安心、しかもゴルフも一緒にやってくれる」だという。

数年前ペナンで一人40日間のステイをしたが、最初の経験でもあり情報不足もありで、わびしく孤独な毎日であった。今回はそんなこともなく過ごせそうな期待も持てた。ただ予想したとおり妻には最初反対されたが、関東甲信越のサロン会で数名のご夫婦の滞在経験を聞くことができたおかげで最終的には同意し、2人で出発することになった。

② チェンマイでやったこと

* ソンテウに乗る

チェンマイ到着後3日間はアマリホテルであった。セントラル近辺に出るのに自分の脚で行くのはちょっと遠い。まして妻は左足の膝の調子が良くないので、あのデコボコの歩道を歩くのは無理である。

ソンテウを利用するしかない。しかし、これまであの赤いトラックを改造した変な乗り物が街中を走り回っているのは知っていたが、自分で実際に乗ったことは無い。料金の交渉？言葉も運賃の相場も分からないのにどうやって？不安があったが利用しないわけにはいかない。そ

こで自分ひとりでセンタンからアマリホテルまで試してみた。指を2本立てて『アマリリンカムホテルOK?』とやったら、ドライバーのお兄さんがにっこり肯いて「乗れ乗れ」とあごで合図をする。もうちょっとあれこれ交渉ごとをするのかな?と思っていたがほとんど何事も無く、荷台の座席に座ってたった3~4分でホテル横に着いてしまった。『案ずるより生むは易し』だなやっぱりと納得、これ以降は何処へ行くにもソンテウは無くってはならない大事な足になってくれた。

自分なりに気付いた乗り方のコツは、下手に料金の交渉をしないこと、お釣りをもらわなくて済むように小額のバーツを用意しておくこと、ちょっと込み入った場所まで行ってほしいときには+10バーツでたいていOKだということ、年配のドライバーより若いドライバーの方が少々無理は聞いてくれるということなどである。利用し始めてから2週間もたった頃には、自分から助手席を指してOK?とやって乗り込んでいたから、ずいぶん図々しくなったものである。

* パスタにはまる

チェンマイに来て2週間たち、妻は帰国していった。それからの2週間は気ままな一人暮らしとは言いがたまず食べなくてはならない。自分は元来一人で外食するのは好きではない。センターの近辺にはいくらかでも食べる場所はあるのだが、いまひとつ言葉が通じないので、本当に自分が食べたいものにありつけないもどかしさもある。そんなこんなで、自炊に挑戦してみた。妻が帰国前に教育?してくれたおかげで調理器具などの扱いも大体分かっていた。といってもIHの卓上レンジと大きなフライパン、小鍋、電子レンジ、トースター、冷蔵庫ぐらいである。まず手始めに自宅でも手伝ったことがあるパスタを作ってみることにした。肝心のソースはセンターのtopsにある1パックで

39パーツの出来上がり惣菜である。全部使うと一人分には多すぎるので今日は半分だけ、残りは明日の分である。そのソースにオリーブオイルで炒めたオニオンとミニトマトを加えると、これが予想外に旨い。スパイスがもともと効いているので、大人の味である。翌日残りの半分には、安い赤ワインを買ってきて加え、さらに味付けを工夫した。それからというものの夕食はパスタ、パスタの毎日である。何しろ惣菜パックは4種類もある。1食で半分しか使わないからほぼ連日のパスタとなってしまうわけである。このパスタ、私の滞在を支えてくれる必須のものとなったことから『パスタ デ ソンテウ』と呼ぶことにした。

＊ ゴルフのこと

南の会のみなさんとランナーGCで4回、ロイヤルCで1回、スタードームで2回プレーした。妻が帰国してから2週間の間のことだから日本では考えられない回数である。

スタードームにはこれ以外に2回練習に行った。リーズナブルということもあるし、近いということもあるし、他にすることもないからと言ってもいいかもしれないが、とにかくゴルフ好きには天国と言っていいだろう。スタードームで韩国人の3人連れとプレーすることがあったが終始賑やかで楽しく、しかもすこぶる上手な人たちだった。

それにつけても南の会でゴルフの世話をしてくださる方々には感謝したい。予約、送迎組み合わせ等々本当によくシステム化されていて無理が無く、無駄が無いのに感心した。「実は大変苦労しているんだ」とのお話も伺ったが、私のような初心者・ビジターにはたいへんありがたい。世話人の方、メンバーの方々には申し訳ないけれど、どうか少しでも長く今のようシステムが続いてほしい。

＊ 初めて病院に行ったこと

サロン会でKさんからチェンマイのラーム病

院は立派だよ、というお話を伺っていた。またサロン会で知り合ったIさんが、今回訪チェ翌日怪我をしてラーム病院で手術を受け、経過は良好だというお話を聞いた。ラーム病院は私が借りているナコンピンコンドの近くである。2月12日に、後学のためにそのラーム病院を見学しに行った。青木さんという日本人のスタッフの女性も勤務されているという、もしかしたら少しぐらい話ができるかもしれない位の軽いノリである。

ところが、フロントで案内を頼んだ瞬間から、完全に患者扱いになってしまい、最終的には内科の診察を受けるところまで、あれよあれよという間に事態が進んでしまったのである。結局背中のおできを診てもらい、薬まで処方してもらった。出かけるときに念のために海外旅行保険の証書とパスポートのコピーを持参したのも結果的に役に立ち、支払いについての保険の適用まで一連の経験をする事ができた。

病院を出るとき、「おかげさまで貴重な経験ができました」とお礼を言ったら、「あんまり経験したくないことですよ」と言われてしまった。

③ ステイを終えて

わずか1ヶ月足らずのステイであったが、私にとって今回のチェンマイは出発から帰国までいろいろなことが次々にあって、楽しくも刺激的な日々であった。妻も旅行前に膝を故障したため、車椅子で空港内を押して貰いリフトで飛行機の横腹から搭乗するなどという経験をさせてもらった。住居も3つのホテル、1つのコンドを移り住んだ。2人でステイ中の話がつきないこの頃である。

帰国してからパスタを作ったが、残念ながらt o p sの惣菜に匹敵するソースが手に入らないので、満足できる『パスタ デ ソンテウ』を家族に披露するに至っていない。

何故チェンマイなの？

関西支部 №1436 森 定信

「何故チェンマイなの？」日本にいる時はよくこう聞かれた。それがチェンマイへ来ると、「ゴルフをしないのにチェンマイに来て一体毎日どうやって過ごすの？」と会員仲間からたびたび聞かれた。

今朝は滞在型旅行ならではの、ゆっくりとした時間を過ごそうと思い、ホテルのベッドに寝転んで「今、何故こうしてチェンマイにいるのか」改めて考えてみた。

日本の冬の寒さは、脚・腰に神経痛をかかえる我が身にはピリピリとこたえるようになった。そのうえ我が家では老々介護がまもなく問題になってくる。肉体的にも経済的にも負担がのしかかってくる。日本の財政悪化がそれに輪をかけるだろう。日本国の借金の膨張は将来急激な円安を招くかもしれない。一方で、近所付き合いが疎遠になり、人間関係がギスギスしてきた。そんなことからこの先日本だけで暮らし続けることへの漠然とした不安を感じるようになってきていた。

それらの不安を解消する手段の一つが、年中暖かくて、物価が安く、国民が優しくて治安が良い国、日本人滞在者が多くて、安心して医療が受けられる国（実際に、のどを痛めたとき日本人スタッフが3人もいるチェンマイ・ラム病院で治療を受けた）、野菜・果実が豊富で料理のおいしい国、で暮らすことだと考えるようになり、探した結果がタイのチェンマイだった。

幸い今は円高だ。そのうえタイの物価は今のところ日本に比べると非常に安い。しかしタイの物価は毎年上がり続けていて、日本との差は縮小しつつある。だから今がチャンスなのだ。チェンマイなら外国人滞在者にも人気があり、日本人滞在者も多い。それでチェンマイに会員の多い南の会に入会した。仲間がおれば異国に滞在するにしても心強い。

チェンマイに出発する直前のうまいタイミングで南の会においてパソコン講習会があり、海外生活におけるパソコンの活用方を教えていた

だった。ロングステイ用にとモバイル・パソコンを新たに購入してチェンマイに持って行った。チェンマイでの情報収集、仲間との連絡、日本の家族との連絡と大変重宝した。

チェンマイに着いた翌日、チェンマイ滞在経験のある会員の方が、これからのチェンマイ生活を快適に過ごせるようにと、いろいろと案内してくれた。交換レート of 有利な両替屋（1か月滞在するとなるとこの交換レートの差は大きい）、銀行口座の開設とATMカードの作成（タイでは外国人旅行者は銀行口座を開設できなくなったと聞いていたので驚き）、ATMはチェンマイのいたるところにあるので大金を持ち歩くことの不安が解消された。通信費が格安な携帯電話の購入（仲間との連絡や日本へかける場合、ドコモの携帯の10分の1の費用で済むとは驚き。おかげでドコモから海外通話用にとレンタルした携帯電話は不要となった）、ソンテウの利用の仕方（10人ぐらい乗れる乗合型タクシーとでも言えばいいのか、市内を移動するのにこれほど安くて便利なものはない、ほとんどのところが60円で行く事ができた）、安くて安心なマッサージ店（2時間チップ込みで900円）とフードセンター（一品90円から100円）、日本人の溜り場の食堂（情報交換の場としても活用できる。ソーメンがとてもおいしかった）等次々に案内してくれ、以後のチェンマイ生活がどれだけ快適になったか計り知れない。

チェンマイへ長期滞在に来る人の多くはゴルフが目的であると、南の会に入会したときから分かっていたが、実際にチェンマイにやってきて、何度か誘ってもらった食事会の席で、「今日で1週間連続ゴルフをした」とかが当たり前のように話されるには改めて驚いた。皆さん60歳を超えておられるのにゴルフ三昧ができる体力がすごい。

ゴルフをされるほとんどの方の滞在先がコンドミニアムで、当然食事は自炊である。「私は朝食付きのホテル滞在です」と言うと、「なんと贅沢な」と口ぐちに言われてしまった。

チェンマイに来る直前に、南の会に、「チェンマイではゴルフはしませんが、卓球をやりたい

からよろしく願います」とメールをしていた。南の会紹介の旅行社を通じて予約しておいたチェンマイのアマリリンカムホテルに着いてメールを開くと、卓球をされる会員の方からメールが届いていた。

ホテルでのインターネットの利用は有料である。その料金はまた超割高である。(4時間750円)だからインターネットの利用は極力ホテル近くのネット喫茶を利用した。一杯100円のコーヒーで何時間でも利用できた。ホテルのクリーニング代も超割高なので、近くのクリーニング屋に通うことにした。(10枚ぐらいで240円。ホテルの10分の1)

ホテルに着いた翌々日に、その方がホテルまで迎えにきてくれ、ソンテウに乗って市営競技場内にある卓球場まで連れて行ってくれた。

そこは冷房もない、更衣室もない卓球場だったが、そこではなんと私の予想以上の20名近くの日本人の方が卓球を楽しんでいた。女性の方が多く、また初心者の方も大勢おられた。初心者の方でタイ人コーチの指導を受けておられる方も何人かいた。いろんな人たちが卓球の練習相手になってくれた。練習の後、一緒に練習した人達と食べた昼食のタイ風焼き飯の、そのおいしかったこと。ここで一週間に5回卓球できることも分かった。

さあこれからチェンマイでの運動は卓球を中心にやっていこうと思った矢先に、チェンマイに来てから歩き過ぎたのと、足を痛めたので2ヶ月ほど止めていた卓球を急に再開したのが悪かったのか、古傷の足裏の神経をまた痛めてしまった。医者からは痛みを感じたらすぐに運動をやめるようにと言われていたので、卓球を断念せざるを得なくなってしまった。

しかしチェンマイへ来たのは日本で暮らすように毎日を過ごすことにあるので、足の痛みが取れるまでは自転車でチェンマイの街を散策することにした。新しい自転車を1日借りて220円。

先輩会員の方からはチェンマイは車とバイクがやたらに多いうえに歩道も整備されていないから自転車に乗るのは危ないよと忠告されてい

たが、足を痛めていてはやむをえない選択。

なるほどバイクは道路を群がるように列をなして走っているし、車道の左端は傷んで、でこぼこだらけ。おまけに車の路上駐車も多い。自転車で走りながらの街の見学なんてこわくてとてもできない状態である。

街のどこを走っても自転車はほとんど見かけない。たくさんあるレンタルショップも圧倒的にバイクが多い。道を走るとバイクがすぐ脇をすり抜けて追い抜いていく。バイクから見れば前をトロトロ走る自転車は目障りに違いない。しかし不思議なことにクラクションを鳴らされて邪魔者扱いされたことは1度もない。逆にこちらが道を譲ると何とも言えない微笑を返してくれる若者が多い。

途中立ち寄った食堂や喫茶店の店員、ホテル前のいかめしそうなガードマン、ソンテウの運転手、ホテルのハウスキーパー、クリーニング屋の受付の人、銀行の事務員、カメラのシャッターを押してくれた多くの人たち等、自転車で行く先々で出会ったタイの人達が、僕に返してくれたなんとも言えない微笑。この微笑に出会うと気分が実に良くなる。

シャッターを押してくれと頼むと、タイ人は一様に微笑みながら「1、2、3」と声を出し、必ず2枚撮ってくれる気遣い。こちらが片言でもタイ語を話すと、すかさず「タイ語が上手ですね」と本当に嬉しそうな顔でお世辞を言ってくれる優しさ。いつもよく行くクリーニング屋とネットカフェの女性店員も優しいタイ人の一人。こちらが分かるまで何度もタイ語でゆっく



森 定信氏

りと話しかけてくれる。やっとこちらが理解したと分かった時のなんとも言えない微笑。

ランパーンという町にタイ国鉄に乗って行った。乗った列車は特別急行列車だったが、それは名前だけ。約100キロの距離だったが、予定の時刻よりも30分も遅れて、2時間40分もかかってランパーンに到着。この間、車内放送は全然なし。遅れたことのお詫びもなし。そのことに怒るタイ人もなし。いいなあ長閑で。

これに懲りて帰りはバスにしたが、これがまた大変だった。バスターミナルは20番線まであったが、半分ぐらいのバス標識にチェンマイの文字があり、どのバスに乗ればいいのか分からない。止まっているバスの車掌（ワンマンカーではない）に切符を見せるが違うと言う。切符売り場で確認した乗り場には時間になってもバスは来ない。それで騒ぐ人がいないのが不思議。定刻より40分遅れて聞いていた番線の隣にバスが到着。そのバスの車掌に切符を見せると乗れと言う。やれやれ。

ランパーンの町ではソントウのドライバーに行きたい所の地図をみせたが、地図の見方が分からないらしい。チェンマイでも地図の見方がわからないソントウのドライバーに何回か出会った。結局、目的地とかなり離れた場所に降ろされてしまった。暫く歩くと交通警官がいたので花馬車の乗り場を聞いた。すると携帯電話を取り出し、なんと花馬車を呼び寄せてくれたのだ。

「ありがとう」とお礼を言うと、その警官からまたあの微笑みが返ってきた。

これなのだ。この微笑みなのだ。私をタイに引きつけてやまないのは。日本では長く続く不況や、将来不安もあってか笑顔が失われつつある。しかしタイは豊かなのだ。心が豊かなのだと思う。心豊かな優しいタイ人に接してこれからは暮らせたらといいなあ。そのためにはタイ語をもっと勉強しなくちゃ。早速、語学学校へ行った。

タイに来てタイ語を習うのは楽しい。習いたてのタイ語をすぐに実践できるのだから。そして「お上手ねえ」とすぐにほめてくれる優しいタイ人が多いから。

タイに来て3週間経った。まだ日本にいる家族のことを思い出して考えることがほとんどない。妻にはすまないと思うが、どうしてなのか。心配してもしようがないと思うようになったからなのか、タイで暮らしていると先のことをあまり考えなくなってしまうからなのか。先のことを考えない生活が快適なのか。日本へ帰るまでの1週間考えてみよう。

チェンマイ訪問記

関西支部 №1473 名倉 孝

1月26日から2月23日までチェンマイに滞在いたしました。その間、南国暮らしの会の皆様に大変お世話になりこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

昨年、タイのチェンマイの虜になっている友人から「またチェンマイに行くけど一緒にどう」と誘われて、以前からその素晴らしさを聞かされていたのでその場でお願いしました。定年退職して近くの比良山系の山々へトレッキングしたり、琵琶湖でヨットに乗って遊んでおりましたが、何か新しい遊びを探していたこともありまして、かの地はゴルフをやらないと面白さが半減するよと云われて、62歳からの手習いで「よし、やってみるか」と一念発起して彼から借りたゴルフクラブと云うものを初めて手にしました。最初はレッスンプロに学ぶべしとの忠告で、近くの練習場へ行行って申し込んだら何とか月以上待ちと宣言され、12月の初めから教えてもらいゴルフのなんたるかもわからないまま日本ではコースへも出ずにぶっつけ本番でチェンマイへ飛びました。

チェンマイに行くについて3つの事をしてやろうと出発前に考えておりました。一つはゴルフ、二つ目は日本と同じ仏教国での寺院巡り、三つ目は日本では体験できない事です。そして寒い日本を離れ温暖な過ごしやすい気候でなんとこの地は天国かと感じましたが、現地の人のほほ笑みや優しさでさらにその感を強めました。その上物価が安く日本では考えられないような価格でサービスや飲食が出来るのですからこれ

は何とも嬉しい限りでした。このような点が日本人をはじめとする多くの観光客を集めているのでしょうか。

ゴルフは何度かコースに誘っていただきましたが、日本での準備不足がたたってゴルフになりませんでした。しかし、一緒にラウンドしていただいた人達に親切にして頂きキャディさんにも手助けしてもらって、曲がりなりにも途中ギブアップすることもなく、「あ〜これがゴルフと云うものか」を体験しました。沢山たくさんゴルフ場でボールを買いました。そして日本での練習を決意しました。練習の成果を発揮する場はやはりこの地で、池ポチャなしに挑戦するぞ。

お寺はたくさん参拝しました。インドでお釈迦様がはじめられた仏教と云うものが、伝播するルートが色々あった中でその国での吸収の仕方や政治的利用など様々な理由があるにせよたどり着いた現在の姿は、日本の現実と比べてこれほど違うのかと云うのが実感です。以前訪れた中国や韓国ではそれほど感じなかったのですが、今回訪れたチェンマイにおける仏教寺院は誰にとっても開かれた開放的な体制で、日常に根差した宗教であるとの印象を強く受けました。

日本における秘仏とか写真を撮ってはだめと



ワット・チュディ・ルアン
(チェンマイ)

か仏様に近づけない等々、目に見える現象だけ見ても違う宗教のように感じました。勿論これは全くの個人的な感想で、自分の理解不足や的外れはご容赦をいただきたいと思います。お墓がなかった（気付かなかった）ので次はそのあたりを調べて巡りたい。

そして日本の日常生活では体験できない事、それはプールのある生活でした。投宿先にプールがあると聞いていたので楽しみにしておりましたが、予想以上に素晴らしい体験でした。昼からは毎日のようにプールサイドの長いすで横になりながら本を読んで暑くなるとプールに浸かり（泳ぐわけではありません）疲れると昼寝して優雅な気分を味わいました。旅行者にとって滞在先での楽しみ方はそれぞれですが、私はこれに嵌まり大いにリッチな雰囲気を経験できたのが何よりでした。そんなこと別にたいしたことではないよと言われそうですが、日本で毎日プールのある生活なんてこの歳になるまで体験は出来なかったものでこれはほんとによかったです。日常の憂さを晴らすにはこれが一番だ。

家庭内パスポートが取れて資金の確保が出来ればすぐにでも飛んで行きたい。その節はチェンマイ山口支部長様はじめ南国暮らしの会の皆様よろしく願いいたします。



名倉 孝氏

「奥様のチェンマイ暮らし」

○チェンマイに来たきっかけは？

A 主人は現役の頃から、ハワイへ行きたい！ハワイへ行きたい！「ハワイでロングステイ」などの本をいっぱい買って、行きたくてしょうがなかった。私は一度は体験させてあげなくちゃと思い、主人が会社を退職して直ぐにチェンマイに来ました。

私は来る気が無かったのですが、一ヶ月も滞在すれば気が済むだろうと思いました。しかし、主人はやる気満々で直ぐにゴルフ会員権を買ってしまった。その上、帰る際に主人はコンドミニアムを探して一年契約し、既成事実が積みあがってしまったんです。

コンドミニアムを一年契約すると長いこと居ないと「もったいない！」。最初のきっかけは主人のペースに引っ張られてという感じです。

日本にいと、ゴルフは自腹でやるのも大変だし、更に、都心から高速を使わないでゴルフ場にはまず行けない。そうすると行くのも月に精々1回か2回程度なのに、ここでは安くプレー出来ます。東京で何もすることが無い男の人は日本に居るよりは、チェンマイのほうが凄く楽しそうだし・・・

B それは皆共通だと思う。夫は皆こっちが良い。

全員 そうそう、多分そうだと思う！

B 男の人はこっちチェンマイが良い！友達も多いし、ゴルフを何回も出来る。そんなの日本じゃ考えられないから……。特に、チェンマイの場合は夫婦の方が多いし、それが一番！みんな活き活きしている。

C うちの「ロングステイやります」という記事を見つけて南の会に入りました。その頃はフィリピンがロングステイの候補でした。地方にいたのでサロン会には出席できず、送られてくる会報を見ながら、退職したら絶対にロングステイと言っていました。その内、フィリピンよりチェンマイと言う声が大きくなってきました。

結局、その後にチェンマイにロングステイすることになりました。何もしないで生活するのは退屈だろうと、子供達がゴルフ道具を送ってくれたのでゴルフをするようになりました。

でも、私は「なんで外国まで来て！」という気持ちは少しありましたね。

D 私は主人が定年まで頑張ってくれたので、海外で暮らしたいという願いを叶えさせてあげたいと思っていました。それと年金生活なので、日本で暮らすと生活費も高くつくし、ちょっと大変かな？しかし、私が頻繁に日本に帰っているの、結局は大変です。

全員 日本に帰る交通費は大変よね！

D もう少しで私の年金が入るので、ちょっとマシになります。年金の問題はロングステイのきっかけとして大きいと思う。

A やっぱり経済的にも生活が楽ですね。チェンマイではあまり節約しないでも、まあまあの生活が出来ます。日本に帰れば節約して外食はほとんどしないでゴルフもほとんど行かない。

E 私は死ぬ前に一度海外でロングステイをしたいと思ってあちこち探しました。探した末にチェンマイに決めました。気に入っているのは気候の良さと治安です。治安は外国に居るにしては良いと思います。一度も怖い思いもしたことは無いし、物価も安いし過ごしやすいところだと思っています。

主人はここが気に入って、最期はここで遂げたいと思うほど気に入っています。病院も良いですね。サービスが良いし親身になってくれました。病院代もそこそこで変わりませんし、元気でいるうちはチェンマイにお世話になろうと話しています。

C 7年前に来ましたが、その頃は男性一人の人が多かったのですが、徐々に夫婦の人が多くなりました。今はシーズンステイの方は夫婦連れが非常に多くなり健全な方向になって来ました。(笑)

○チェンマイの暮らしは如何ですか？

B 私がロングステイを始めたのは10年前ですが、夫婦でステイは本当に少なかった。

A 南の会の存在は大きくて、もし会に入っていない人がロングステイしようと思ったら自分たちで行かなければなりません。知らない所に行くのは勇気のいることです。私たちがアマリ・リンカム・ホテルに初めて宿泊した時も、亡くなられた酒匂さんが全く面識がないのにお食事に誘って下さいました。ゴルフでも自分でビジター料金でやるしかない場合に会員の方から誘って頂いたりして南の会の存在はとても大きいと思います。

C 海外に行くと、特に心細いことも多くありますよね。

B 南の会ってものすごく良いと思うよ。少人数から立ち上げて皆いい人が多くて！皆親切なものねー！

D 慣れている人は何回も来るので、新しく来る人に色々と教えてあげられる。

C 何回か来れば、後は大体自分たちで出来るようになるしね。

A ゴルフをしたいから会に入る人も多いですね。

B 男の人はゴルフを楽しみにして来ている人が多いよね。

C 会に関係なく、チェンマイに来る人はゴルフをする人が多い。安いし、ゴルフ場は近いですから・・・

B 日本にいと高速に乗って行かなければならないし、プレー代も高いから「月に1・2回」がチェンマイは週に3回も4回も行けちゃうもねー！それも夫婦でプレー出来るんだから！チェンマイは気候も良いし、友達も沢山できる・・・ゴルフ友達ね！

A 女性の側からいうと食事もね！外で割りと安く食べられ、美味しいところが多い！

C それとタイ料理ばかりでなく、色々な料理がある。中華も、イタリアンも、韓国料理も食べれる。

A その点は助かるし、家で食べたい時には、家で作るという感じになります。

B それにチェンマイの良さは「程よい狭さ！」。どこへ行くにも、食べに行くにもソンテウで行ける。他ではそうはいかない。

D 程よい狭さだよね！日本から知人が来ても、直ぐに迎えに行って、直ぐにホテルに案内出来る。

E 生活圏が狭いから、どこへ行くのも便利ですね。タイの人は歩かないけど、日本人は歩いてどこへでも行ってしまう。市場でもセンタン（デパート）でも歩いちゃいますね。そしてミマンヘミン通りやホイケウ通りを歩いていると、沢山の南の会の人に会いますね。

A 車が無くても生活できる。車があれば便利だけれど、チェンマイでは無くてもやっていける。

B ソンテウはすごい重宝というのを感じる。だって、違う国に行ったらタクシーをチャーターしたり、料金交渉したりが面倒くさい！やっぱり、ソンテウがあるのはすごく楽。チェンマイでは車の運転はこわくて出来ないもの。

C ソンテウは行き先を言えれば全然問題ないですからね。

A 最初の頃はすごく怖くて、どこに連れて行かれるかと思った。今は地理も分かって来たので不安はなくなりましたが、最初はドキドキしてました。

○食事はどうしていますか？

D 私のところは台所が使いにくいのね。電気だから、火力が弱くて料理するのに大変。時間が掛かります。

C いま住んでいるコンドミニウムはIHに変えたのよ。良いよーIH！日本と変わらない。

A IHは楽よね！一つ口で充分。

C あっという間に出来るから！電熱ヒーターの温まるまでの時間、あれが無いから凄く楽ちゃん！

A 今の所はIHが付いてないから自分で買いましたけど、そんなに高くない。

C 私、この間買ったのが1750バーツ（4800円位）でした。

A IH用の鍋はまだ高いのよ。

C 鍋は替えなきゃならないから替えたけど、

でも凄く楽！

B Cさんはほとんど自宅できちんと日本食を作っているから……。そういう方もいるし、それぞれね！

C たまにホテルに食べに行くのを楽しみにしています。

○楽しみは？

A 私は学生時代から運動を全くしなかったのですが、ここに来てゴルフを始め、テニスをやって、自分の一生のなかで一番スポーツしています。

C 私も同じです。スポーツをする時間的な余裕もありますね。

A 卓球がチェンマイではブームになっていますね。

B ここに来なかったら卓球はしてませんね！ゴルフは涼しいうちにプレーしてしまおうと朝早く行くので行けません。卓球しましょうと言われて今はまっています。卓球等は日本でも費用は高くない、ゴルフは高いからゴルフをしたほうが「良いなー」と思うけど、朝早いから！

C 私は運動をしなかったのですが、こちらに来てジムも安いからフィットネスに行ったりしています。

○日本に居る時の煩わしさから解放されることはありますか？

C 私は通勤族だったので元々近所との付き合いは薄いから、あまり煩わしさなどは感じたことは無いけど、こちらは隣近所と特別な付き合いが無いだけ楽かもしれませんね。

D 私は地方に住んでいるので、近所ではうわさの人になってしまった。

B 私は無いと思うけど、何か言われているかもしれない……

D 親族は誰もチェンマイでのロングステイに賛成はしなかった。

B 親族に聞いたの？

D 聞いたというか「行きます！」「行って来ます！」。賛成は無かったけど、子供夫婦と住んでいるので法事や町内会行事などは子供に私たち

の役割を任せています。

A うち町内会が無くて、それに関連することはないので日本にいても煩わしいと思ったことはありません。

誰も何も言わないけれど、「あら、良いわねー」と言われることがあると、その言葉の裏側を考えてしまうこともあります。

B 私も一度言われた。「Bさん、すごい大金持ちね！海外に長期で行けて！」。長期の方が安いと言ってやりたい。

A やっぱ、ちょっと行きたいなーと思っても本当に海外に行ける人は中々居ない。

C 一歩が出ない人が多いですね。

A 一歩出る人は変わりもんと言うか……(笑)

C 変わりもんよ！

B それはあるかもしれない。

A 多少我ままというか、踏ん切りがつかないと難しいですね。色々なしがあるから出られない人も多いのでしょう。

B お父さん、お母さん、孫の面倒をみる。大体がそういう理由ですね。家族の面倒を色々な形でみなければという気持ちは女性に強いですね。

○チェンマイでの対人関係は？

C こちらに来て知り合った方々ばかりだから、目的が一緒で付き合いやすいし、割り切って付き合える良さがあります。

E 人間関係はあまり深入りせずにお互い様！適当にそこそこで適度な距離感で付き合っているので良い関係です。生活する上で分からないことはサロン会などで他の人や支部長に聞いて解決しているので困ることはありません。

○困ることは？

B 車が増えて渋滞がチェンマイのあちこちで発生していますね。ミマンヘミン通りは夕方動かないよ。

C チェンマイで交通事故に遭った日本人は横断歩道を渡っていて、もう少しで渡りきるところで跳ねられてしまった。

E 怖いねー

A 横断歩道や信号は信用できないから・・・
C 私は2回怖い思いをしています。道路を横断しようとしていて車が止まってくれたので渡ったら、停車していた車の横から別の車が来てあと数センチのところで跳ねられそうになりヒヤッとしました。

E 特に、バイクに気を付けないと・・・
C チェンマイは車社会で車中心に動いています。しかも、歩道が整備されていなくて、その歩道に車が駐車していますからね。

D 歩いていて何で歩道に車が置いてあるんだ！歩道いっぱい置いてあるので、歩いて邪魔だし、歩道が車で通れないから車道を歩かなければならない。これってヘンよね！

A 歩道の段差が大きいので3回くらい転んでいます。

E エー、本当！

A 歩道だから目的に向かって、サッサカサッサカ歩いていて、足の上がり足りなくて転んでしまった。

C 歩道の真ん中に木を植えてあったりして、年配の人は歩くの大変ですね。

A 下向いて上向いて、前見て左右見て！

C 後ろも！後ろからパーと来られることもあるから怖いね。あとは犬！

E 犬は怖いね！

C 犬がいたので遠回りしたのにワンワンと追いかけて来たのよ！あれは怖いです。

主人がお菓子をやればいいじゃないかと言ったけど、毎回この人はお菓子をくれると待っていたら困る、そんなの嫌よ！

B 3月に入ると空気が汚れてくる。

A 今年はそんなに汚れていないみたい。ドイステープが見えるし、最近では以前ほどひどくない感じがします。

B 家の中にアリ来ない？今まで全然平気だったのよ。ところが、パンを冷蔵庫の上にボンと置いておいたの。それを夕方食べようと袋を開けたら「びっくり！」中はアリだらけ！

A すごいね！

C アリの巣は探しても分からない。

B ここのアリはコンドミニウムの高いところ

まで入って来るし、噛まれるとしこりが残ったりして大変ね。

そして、蚊もすごい！外食に出掛けたりすると屋外の方が風が通るし気持ちがいいけど蚊に刺されてしまう。家の中でもきちんと網戸をしておかないと入ってくるしね。

C デング熱が怖い！おとし流行ったじゃない。

E うちは一軒家に住んでいた時に毒蛇！こっちは8割が毒蛇だそうです。毒蛇は綺麗なんですよ。黒とか黄色とかキレイなグリーンだとか。

C 鮮やかなのね。

E その鮮やかなのが出ました！大きいので1メートル位で犬が追い詰めて主人が処分した。あと、4・50センチ位が結構出ましたね。草むらにいて洗濯物を干す時は物干し台の下にいないことを確認して干さないといけないです。

A それは大変ね。太陽の下に危険がいっぱいじゃない！

E もし咬まれると手足を切断することもあるので、南国での一軒家に住む時は毒蛇対策が必要ね。蛇が出たら主人は蛇が他に比べてよそ様に危害を与えると大変なので必ず処分します。

○生活の利点は？

A 日本にいと否が応でも、これまでの人間関係や社会生活を引かずった生活になってしまう。それはそれで良いけれど、ロングステイはリセットし気分を変えることが出来る点が良いですね。

E こっちで暮らすと家財はそんなに要らないし、日本での物に溢れた生活から離れてシンプルな生活を送れますね。

B 物に溢れた生活から、シンプルライフをするのも悪くないわ！日本にいと捨てきれない物が多いけど、チェンマイでシンプルライフを経験すれば日本での生活も変える自信が付く良い機会ということね。ロングステイで「シンプルライフを楽しもう！」ですね。

注：「ソンテウ」は小型トラックの荷台にベンチを縦に備えた作りの乗り合い自動車です。

KL・ペナン・チェンマイ・マニラ・セブの物価事情

物価が安いアジアの5都市を比較してみました。調査時のタイミングで多少の上下のズレはあります。

品目	単位	KL	ペナン	チェンマイ	マニラ	セブ
日本米	2kg	¥600	¥770	¥330	¥378	¥432
味噌	500g	¥445	¥445	¥205	¥139	¥162
醤油	1ℓ	¥697	¥361	¥510	¥420	¥463
ソース(中濃)	500ml	¥303	¥303	¥380	¥446	¥333
砂糖	1kg	¥59	¥62	¥63	¥115	¥117
バター	200g	¥100	¥165	¥182	¥125	¥130
牛乳	1ℓ	¥170	¥141	¥110	¥160	¥135
鶏卵	10個	¥118	¥84	¥151	¥93	¥90
豆腐	1丁	¥112	¥27	¥60	¥63	¥99
納豆	1個	¥64		¥82	¥45	¥45
肉:牛肉	1kg	¥5,571		¥1,018	¥569	¥954
豚肉	1kg	¥784	¥560	¥522	¥369	¥315
鶏肉	1kg	¥355	¥168	¥260	¥220	¥210
マグロ(刺身)	100g	¥442		¥234	¥86	
トマト	1kg	¥95	¥104	¥179	¥396	¥63
キャベツ	20~30cm	¥200	¥84	¥96	¥85	¥90
大根	1本	¥131	¥98	¥55	¥58	¥128
人参	1kg	¥111	¥112	¥178	¥139	¥284
ジャガイモ	1kg	¥47	¥78	¥96	¥99	¥124
たまねぎ	1kg	¥92	¥140	¥96	¥131	¥268
スイカ	1kg	¥80	¥62	¥100	¥61	¥45
ミネラルウォーター	1ℓ	¥17	¥13	¥22	¥33	¥36
缶ビール	350cc	¥180	¥165	¥73	¥51	¥52
アルカリ電池単3×4		¥420	¥174	¥210	¥216	¥108
理髪(カット)		¥280	¥140	¥275	¥180	¥144
美容(カット)		¥1,848	¥140	¥550	¥900	
主要な調査先		JUSCO	JUSCO	TOPS	SMシュエーモート	Ayala mall

◎KLコメント：日本人が買うようなものを調査、もっと安いものもあります。

日本食材・オーガニックは日本と変わらないと思います。

◎チェンマイコメント：野菜・果物は市場で買うともっと安く買えます。

◎換算レート：マレーシア1RM=28円、チェンマイ1バーツ=2.75円、フィリピン1ペソ=1.8円

会員からの投稿

Air Asia

関西支部 №1113 木村 誠治

Air Asia の本拠地マレーシア・クアラルンプール (KL) の LCCT (ローコストキャリアターミナル) は、いつ行っても人、人で一杯です。Air Asia のほとんどの機体には赤地に白抜きで大きく NOW EVERYONE CAN FLY と書かれています。Air Asia の企業理念、創業の理念でしょうか、東南アジアの人々に安い航空運賃を提供し業容を拡大しています。昨年も赤字が多い航空会社の中で増収増益との新聞記事を読みました。最近では KL から羽田にまた韓国のインチョンにも乗り入れています。



Air Asia 機

今年2月中旬からマレーシア・イポー市に滞在していますが、KL から Air Asia で2月にはベトナム・ホーチミンへ、3月にはインドネシア・バリ島へ出かけました。ホーチミンへは昨年7月に1人往復204RM (5652円)、バリ島へは昨年11月に156RM (4180円) のチケットを Air Asia のホームページから購入しました。いずれも約2時間のフライト時間でこの値段です。2つともプロモーションでホーチミンへもバリへも1人片道44RM (1220円) でした。これに空港税と座席指定料などを加算したのが上記の値段です。他の航空会社にあるオイルサーチャージや航空保険料の請求は Air Asia にはありません。このオイルサーチャージと航空保険にはどうも納得がいきません。オイルサーチャージはオイル代が上がるたびに利用者に転嫁されていますが、同じオイルを大量に使っているトラック業界は荷主の理解が得られないからと言ってやっていません。また航空保険も然りです。保険料が高くなった分を利用者に転嫁しています。航空業界は政治力で利用者に負担を転嫁したのでしょうか。その点でも Air Asia は企業努力でやり繰りしているようで立派だと思います。

一方ではコストの引き下げを図っていますので、多少の不便は辛抱しなければなりません。

チェックインは出発50分前にキッチリ終了します。これはチェックインを終えた後に同じ社員が搭乗口の業務に就くのが理由のようです。1人でいくつもの仕事を兼務しているようで、スチュワーデスは機内の清掃もするとのこと。KL の LCCT では搭乗する飛行機まで空港の建物から外に出て暑い中を歩いていき、蛇腹ではなくタラップで乗り降りします。

搭乗券はスーパーのレシートのような薄くペラペラの紙です。もっとも LCCT 以外の空港では蛇腹での乗り降りでしたし、搭乗券は紙質の良いものでした。座席は通常150人乗りを1

80人乗りに増やしており前後の座席は少し狭くなっていますので体格のいい人にとっては窮屈かもしれません。機内サービスは無料のものではなく全て有料です。

安いから安全性に問題があるのではとの懸念については、マレーシア政府が他の航空会社と同じ基準で監督しているので特に問題はないと何かで読んだことがあります。

私たち夫婦は赤いボディの Air Asia のファンです。これからも早め早めにスケジュールをたてて安いチケットをゲットしようと思っています。それと関西国際空港にも Air Asia が1日も早く就航してくれることを願っています。

2011年3月1日



Air Asia のチケット

チェンマイから海外へ

九州支部 №851 稲田 聡

私は入会した翌年の6年前からチェンマイにほぼ毎年滞在しています。

当初から2ヶ月、最近は3ヶ月です。最初は会報や南国メールで先輩方が下見でも最低2ヶ月は必要と言うアドバイスに従ったわけです。2ヶ月の場合はノービザで、3ヶ月の場合はツーリストビザでということになります。

ノービザで2ヶ月滞在の場合、最近は空路国外に出て再入国が必要になります。ツーリストビザの場合チェンマイのイミグレーションで30日の延長をして90日の滞在が出来ますが、

折角なら外国に出れば旅行も出来るということで、この2年ほどはツーリストビザの60日の期限までにタイ国外に出ています。

ルアンパバン（ラオス）

6年前は、ノービザで2ヶ月でした。陸路メーサイからミャンマーのタチレックにするか、それとも空路国外に出るか迷っていました。チャイマシヨンの部屋でTVを見ていたところNHKワールドの「世界遺産100」でラオスのルアンパバンをやっていました。これだと思いました。

隣のナコンピンコンドの1Fにはラオス航空の事務所があります。早速行って切符を買いました。ゲストハウスの情報を聞きました。スタッフの女性は7月の今はオフ・シーズンだから、行けばいくらでもあると言うのです。

まあ何とかなるだろうと7月末のある日チェンマイ空港からラオス航空のATR72という定員70名程のターボプロップ機に搭乗しました。乗客は全員が欧米人で東洋人は私だけでした。満席です。チェンマイとルアンパバン間は毎日1便運航されています。

飛行時間は1時間足らず。着陸前下を見ると緑の木々の中に建物の赤や青の鮮やかな屋根が点在する美しい街です。しかしラオス第2の都会とはとても思えませんでした。

空港は3、40年前の日本のローカル空港並みで、これでも国際空港かと驚きました。平屋の空港ビルの向かい側にこれも平屋の免税店もありますが、品物もろくなものがありません。



ラオス航空機

チェンマイのツクツクと同じようなものを捕まえました。50ccの原付バイク改造であるところが違います。

町の中心で降ろされ、バックパックを担いで宿を探すことになりました。メコン川沿いにゲストハウスがあると情報を得ていたので歩き回ります。暑いだろうとエアコンのついたゲストハウスを探しますが、見当たりません。1時間も歩き回ったでしょうか、やっと見つけて聞くと今日は満室、明日は空いていると言います。では明日から2泊するのでと予約し、今夜の宿を紹介してくれるよう頼みました。

紹介された近所のゲストハウスはエアコンなし、ファンのみでした。しかし実際は、メコン河沿いは、夜は涼しくエアコンは要らなかったのです。又ゲストハウスには貸し自転車があり、1日1ドルでした。貸し自転車屋は他にもあるので、2ドルのマウンテンバイクを借りればよかったと思いました。メコン河沿いから街の目抜き通りまでは登りになるからです。

通貨はキップですが、ほとんどドルなので、1ドル札にして持って行ったほうがいいかもしれません。ゲストハウスの支払いはバーツでもOKでした。

宿で自転車を借りて街にある旅行代理店に行きツアーを申し込みました。メコン河を遡り、パクオウ洞窟の中に4,000体もの仏像を見に行くツアーと、クワンシーの滝に行くものがあります。お勧めだと言うのでクワンシーの滝に行ったのですが、パクオウ洞窟のほうが良かったと思いました。欧米人は水着を取り出し、早速滝つぼに入り泳ぎ始め、中には滝をよじ登る人もいます。水はメコンと同じで茶褐色で見た目では日本人には気乗りがしません。私は、水着はないので、一緒になったカナダ人の荷物の番をしながらビールを飲んでいました。ラオス唯一のビア・ラオはタイのシンハーより上だと思います。

12人乗りのマイクロバスは砂利道を街に帰ります。舗装があるのは市内だけです。

次の日は王宮跡の博物館見学とメコン川に落ちる日没を眺めるためにプーシーの丘に登りま



プーシーの丘から見たルアンパバン市街

した。丘の上からルアンパバンの箱庭のような街並みが見渡せ絶景です。王宮は革命が起こったとき王と家族は着の身着のまま逃げ出らしく、その時そのままが博物館になっているのでした。日本の皇室から贈られた磁器も飾られています。一人のガイドがフランス語で説明しており、ここはかつて仏領だったことを思い出しました。

目抜き通りの建物はヨーロッパ風です。白壁には1937などと書かれています。建造年を示すもので私と同年齢です。シロアリの被害に苦慮していると聞きました。

2泊したゲストハウスは、オフシーズン料金で1泊15ドル（オン・シーズン20ドル）、清潔でした。1泊目のファン付ゲストハウスは5ドルです。英語カレッジの学生の息子が夏休みで手伝っており、他の欧米人ではなくもっぱら私に話しかけて来ました。

この人たちも親日であることがはっきり分かりました。先の戦争でアジアの人達は反日だと左翼の人達は宣伝して来ましたが、嘘であることが分かります。相変わらずの反日は東アジアの2又は3カ国だけです。

たまたま首都ビエンチャンでアジアサミットが開催されてTVで実況をしておりました。彼は私に小泉首相を指差し Japanese President と言います。私は No, he is the prime minister. と訂正しました。又 I like Japanese girls because they are pretty. と言います。Someday I want to go to Japan. と彼を訪ねてきた友人と共

に私に言いました。友人のほうは日本語を勉強して、日本の建設会社の仕事をしたことがあると言っていました。私はそれだけ熱心だったら必ず日本にいけるだろうと励ましました。ともかく3泊した間、何時も話し相手になってくれた彼は今どうしているかと時々思い出します。

中国の進出が著しく、かつ上流のやはり中国での取水でメコンの水位の低下などの悪影響を受けていると聞いています。

夕食はメコン川沿いの椰子の木を利用して設えられたオープンレストランでゆったり流れるメコンを眺めながら摂りました。ある夜、ショートステイしているイギリス人と食事を共にしました。

タイを経由してきたが、ここが1番ゆったり出来ると言います。私がこれからチェンマイに帰ると言うと、自分が滞在した、チェンマイから3時間ほどのパーイに行ってみないかとゲストハウスも教えてくれました。その後実際にアーケード、バスセンターからバスに乗ってパーイ、メーホンソンに行ってきました。

ルアンパバンもあるいは最近様変わりかもしれませんが、ラオ人の優しさはタイ人以上なので変わって欲しくないとも思っています。

ルアンパバンに行くには、北タイのチェンコーに行き、川を渡ってフエサイからボートに乗ってメコンを下る方法もあります。スピードボートと途中1泊のスローボートがあります。スピードボートは危険だと聞いています。

私が撮ったルアンパバンの写真がありません。デジカメのメモリ・メディアをチェンマイに帰ってネットカフェでCDにコピーを依頼したのですが、店員がミスをして、CDは空だったことは帰国してから分かったのです。後の祭りとはこのことです。この時PCは持参して行かなかったのです。再訪するしかありませんが、未だ果たしておりません。

6年前のこの時は、今はマッサージ店になっているセンタン前のネットカフェにほぼ毎日通い、ブログのアップと10日間滞在で帰国した妻へスカイプ電話をかけたものでした。ソント

オもネットカフェも10パーツの時代でした。アンコールワット、バリ（ウブド）往復

1 去年はカンボジアのアンコールワット、去年はバリ（ウブド）を往復しました。アンコールワットはアジア随一の噂に違わず一見の価値がある所でした。

ウブドでは日本人のロングステイヤーに偶然お会いしお住まいに行き話を伺う機会がありました。ロングステイ適地かと言うと住まいと滞在ビザの点で疑問が残ります。しかし観光旅行にはうってつけだと思いました。又9月のウブドは涼しいことが嬉しいことでした。

いずれもLCCエア・アジアの切符を日本出発前にプロモーションを利用して購入して行きました。エア・アジアは6年前以来10フライト以上飛んでおり、私はお得意様です。今年も羽田→クアラルンプール→チェンマイと飛び、チェンマイからプーケット往復しようと思っています。

いずれにしても海外（東南アジア）滞在中にその国内、あるいは海外へ旅行するのは、旅費と宿泊費が大変安いと言う大きなメリットがあります。例えばチェンマイからバリを往復した場合、日本から格安ツアーで行く場合の半額以下で可能です。

アンコールワットとバリは行った人も多いと思ったので、ルアンパバンを中心にしました。

ニュージーランド・ワンガマタ Golf, Golf and Golf

関東甲信越支部 №281 梶村真一 村松幸子

ゴルフばかりの私はリタイヤーしたら夫婦そろっていろいろな所でゴルフをするのが夢でした。それには、まず私がコンスタントに100が切れて、練習嫌いの幸子が皆と一緒に回れるように成ることが出来れば・・・ゆったりとコースを回りながら、スキルアップが出来れば良いなあと思っていました。

2010年1月、8月末のリタイヤーにむけて準備を始めました。数年前にチェンマイで鈴木通弘さん（南国・会員番号909）から聞いた「ゴ

ルフ三昧をするならニュージーランド・ワンガマタですよ」との言葉を思い出し。チェンマイの鈴木通弘さんへの連絡方法をお聞きしたく、大阪のご自宅に電話をしました。その折、弟の鈴木康央さんからワンガマタのこと懇切丁寧に教えていただき、よしワンガマタに行こうと決心をしました。例年なら「兄弟で10月から2カ月半程度ワンガマタに行くのだが本年は、2011年春にニュージーランド南島のゴルフツアーを計画しているのでワンガマタには行かない」との事でした。しかし、その後、中富御夫妻も参加されるということで鈴木通弘さんが予定を変更してくださり総勢6名でのワンガマタ行きが決まりました。

鈴木通弘さんに何から何まで計画してもらい、9月28日オークランドに集合しワンガマタに向かいました。

★ニュージーランド・ロングステイ；滞在日数109日、ゴルフ81ラウンド、回ったゴルフコース11。途中、北島を2回にわたって約3週間の観光旅行をしました。

★ワンガマタの概要；オークランドの南東150kmに位置し多くのホリデーハウスが建つ通常時人口4,000人、クリスマスから1月のトップシーズンには人口が40,000人に増えるニュージーランドの人達にとっての憧れのリゾート地。

海岸線が大変きれいでクルージング・フィッシング・サーフィン・・・マリンスポーツのメッカです。



またゴルフが大変盛んでゴルフ場はワンガマタゴルフクラブに所属するチトキ・コース（18ホール 5360メートル・パー70）とウィリアムソン・コース（9ホール 3534メートル・パー30）があります。

★ゴルフの為の費用；ニュージーランドのゴルフ場のシステムは日本と全く異なります。

メンバーになるには1年間分のメンバーフィー（650NZ\$）を払うことでOKです。我々のように2, 3カ月滞在する場合は、6カ月のサマーメンバーという制度があり約半年分のメンバーフィー（2010年345NZ\$、2011年370NZ\$）をはらうだけで、滞在期間中チトキコース・ウィリアムソンコースともに何回プレーしてもグリーンフィー、入場料、税金等、全く必要ありません。

その他かかった費用は、トランダー（手引きカート）の購入費・・・約70NZ\$、ボール拾い（川の中に落ちたボールを拾うため）・・・40NZ\$、毎週、3回くらいあるいろいろなコンペの参加費（1回4NZ\$から20NZ\$ 参加・不参加は自由ですが）その他のゴルフ場でのビジターフィー（15から40NZ\$）

★ハンデキャップ；ニュージーランド国内すべてのコースでオンライン化された共通のハンデキャップシステムがあります。ニュージーランド国内の何れかのコースのメンバーになりカードを10枚提出すると仮ハンデがもらえ、さらに合計20枚以上提出すると正式のハンデがもらえます。仮ハンデを持てばいろいろなコンペに参加できます。また、他のコースに行った時はアフィリエイトという資格でグリーンフィーが割引になり、またビジターでもいろんなコンペに参加できます。ハンデキャップの更新は2週間に1回あります。

コンペ；多くの場合ステーブルフォードという計算方式で競技が行われます。このステーブルフォードの良いところは加点法なので1、2ホール大たたきをしてそのホールのポイントが0になるだけなので、最後まで諦めることなく頑張れることです。

★目標達成；真一100を切ることで達成できまし

た。幸子ゴルフらしくなりました。

最初のハンデ 31 が 19 ベスト 83 (パー70)
ハーフ・ベスト 37 (パー36) 幸子・・・最
初のハンデ 46 が 35 ベスト 99 (パー71) はハ
ーフ・ベスト 45 (パー35) でした。

★アコモデーション；いわゆるトップシーズンは1泊の値段しか表示されていないほど宿泊費は高いのですが、12月の中旬まではかなりリーズナブルな価格です。

今回は、ホームステイと1戸建てを借りたのですがホームステイが約50ドル/1泊2食、3ベッドルームの1戸建てで1週間250NZ\$でした(12月11日まで)

町の中心にあるアパートメントホテル(PACIFIC RISE) 2ベッドルームで2011年9月から12月20日以前(トップシーズンを外した条件)、3か月滞在で300NZ\$/1週間でOKと言っていました。

★その他；食事は町のスーパーで米、醤油その他たいていのものは調達可能。オークランドの日本食スーパーに行けば全てあります。

魚釣り、近くの海岸で入れ食い(べらの一種、刺身、煮つけ Good) 貝拾い

★総括；ニュージーランド・ワンガマタ・ゴルフ三昧、大変良かったです。北島でのゴルフ適地

はいろいろあります。時期としては10月1日から、12月20日ごろまでが良いと思いました。理由；サマーメンバーが10月1日から始まること、クリスマスから新年にかけてのアコモデーション・交通機関が混む事、ビザ・滞在延長の必要がない日数。

今年は9月16日に成田発に入り、今回旅行出来なかった場所を回ったのちタウランガ(ワンガマタから南に約100km)に行き12月15日帰国しようと思っています。

今回のすばらしいワンガマタに連れて行って下さった、鈴木御兄弟をはじめ、同行下さった中富御夫妻、温かく接して下さいましたワンガマタのみなさま感謝、感謝、感謝です。



～街角SPOT～

ミント・トラベル (Mint Travel) = チェンマイ =

代表者はタンヤラック・ピンヨナット (Thanyalak Phinyonatt) さんという清々しい女性です。営業内容は観光、航空券、ホテル、スパ&ゴルフ、車のレンタル等を行っています。事務所はアマリ・リンカム・ホテルにあります。ホテルの建替えにより近隣に移転する予定です。ご主人は南の会会員の頼もしい味方！皆さんご存知のジョンさんです。

ジョンさんは K.K.トラベルを辞めてミント・トラベルに専念するそうです。南の会の会員のリクエストには以前と同様に応えてくれます。ジョンさんの連絡は従前どおりです。
Tel : 081-796-5682 E-mail : cnxtour@yahoo.co.jp



南国暮らしの会 バリ島視察旅行

関東甲信越支部 №1244 金井 修二

前回（2008年）のLS視察旅行に参加して、その時の感動と、ご一緒された皆さまとの連帯感も生まれました。その後の、サロン会やチェンマイのLSでは、顔なじみの皆様とコミュニケーションもよく取れて楽しいLS生活と定年後を過ごしています。私の経験から、なかなかバリ島などに行く機会がなくチャンスがあれば行きたい、そしてその後のLSに大いに役立てたいとの声を聞いて、やらなければ良いのに、「皆さんバリ島にいきませんか！」と声をかけたのが2010年の6月、全国の会員の皆様にお声をかけメールのやり取りをしてやっと最少遂行人員の11名になり5泊7日（2011年3月7日～3月13日）のバリ島視察ツアーが実行されました。

そんな訳で、今回の参加メンバーは関東支部7名、関西支部4名の総勢11人で尚且つ成田からはYご夫妻と男性3名の5人、関空からは女性2名、マレーシアのペナンからはTご夫妻、マレーシアのイポーからはKご夫妻とバリ島デンパサル国際空港に現地集合となりました。

時間差もあり、到着順にクタのラマビーチリゾート&ヴィラホテルにチェックイン、初対面は5日間お世話になったホテルのロビーでした。現地LS中の小林繁之様も参加されての和やかな雰囲気です。視察ツアーがスタートしました。視察ツアーと言ってもほとんどの方が初めてのバリ島ということもあり、視察などと堅いことは無しにしてバリ島を存分に楽しみましょう！感激しましょう！

初めての夕飯はインドネシア料理でレゴンダンスを鑑賞しながらの自己紹介で初日からビンタンビールで盛り上がりました。

＝視察初日＝

まずLSで気になるのは病気の事、本日は病院の視察からです。BIMC病院は市内にあり、

日本語対応できる病院です。日本人スタッフから説明があり、質疑応答後は院内を見学しました。きれいな病院で問題はないが、重病は無理かな？病院側からは必ず海外旅行保険に入ってきてくださいとの事でした。救急で診察し、一晚泊すると医療費が5万円～7万円位になるそうです。もちろん救急車は有料だそうです。ただし、良いのは病院をたらいまわしにされることはないそうです。救急車に医者が乗ってそこで治療が始まるそうです。

観光はインドネシアが世界に誇る観光地バリ島、神々の島、バリヒンズー教の幻想的・神秘的な世界、神々が降臨する寺、日常生活に神々が生きているバリ人の生活など、ガイドブックで見てきた、読んできた世界を自分の目で確認する日でした。

15人乗りのバスで現地ガイド付の観光はキンタマーニ高原とバトゥール湖、ゴアガジャ洞窟遺跡、ウブド、テガランの棚田そしてウルワツ寺院の夕陽を背景にケチャックダンス鑑賞。50人余の上半身裸の男がチャカチャカチャカと踊るケチャダンスは初バリの方々には強烈な印象を与えたと思います。夕飯はジンバランビーチで海鮮料理です。

海岸の砂浜の上でロブスター1匹、かに1匹、魚1匹、貝3個を丸焼きにした料理イカンパッカルを豪快にビンタンビールで食べました。流しのバンドの皆さんにスキヤキソング、スバル、ブンガワン・ソロをリクエストして本当に楽しい時間をすごしました。残念なことに雨季の為、南十字星は見えませんでした。

＝視察2日目＝

ホテルの朝食は7時からですが、それぞれのご夫妻が仲良くゆっくり食事をしていたのが印象的です。何十年か前の新婚旅行を思い出しながら、ひと時を過ごされていましたね？私は同

室のMさんと毎日ご一緒させてもらいましたがMさんはとても80歳には見えない若さで食欲もあり朝8時～夜9時頃までの日程を難なくこなしていました。若いですね、海外に行く機会があればまだまだ参加したいとの事です。

前夜に降った雨が朝日に映えホテルの南洋の木々を濡らし、プルメニアの花など一段と綺麗になった落ちついたホテルの庭園でした。今日はまずバリ島の代表的な踊りバロンダンスを見物しました。ガメランの音色にうっとり、善と悪の終わりなき戦いに思わず引き込まれ、あっという間に1時間のステージが終了しました。大勢の観光客で賑わっていましたが、私たちのすぐ後ろはタイからの女子大生風の女性とコップンカップでご挨拶。チェンマイLSが役立っています？その後は長期LS用のホテルを2つ見学させてもらいました。

◆サヌール海岸地区の「サフィステイカ・ヴァンガロー」82室プール付

スタンダード1日60万ルピア（6千円）朝食付：1ヶ月で13万円

海岸まで500m、スーパーまで100mで環境は良い。

部屋はスタジオタイプでバスタブ無し温水シャワーのみ。TVはNHKプレミアム可。

◆サヌール地区の「プリクラバ・コテージ」48室 バスタブ無し・温水シャワーのみ

スタンダード1ヶ月で135千円朝食付：TVは無、プール有り。

どちらもキッチンはありません。値引き交渉の余地はあるそうです。

今日のお昼は長期LSした時に利用する大衆食堂でのランチをトライしました。大きな通りに面した定食屋「ワルン・ポジョ」の食事は外国人にも衛生的で問題ない食堂です。もちろん日本人も問題ありませんが、やはりお値段はちょっと高め、果物がついて500円ランチでした。内容はインドネシア風焼きそば、焼き飯、空芯菜の炒め物、焼き魚、鳥のから揚げ、イカの甘辛炒めなどが付いたものです。まったく問題ありません。その他一品料理でパッソーやク

アなどもあり利用できそうです。お昼は混んでいました。品の良い現地の人が多く、やはりちょっと高めの食堂でした。もっと安いところは沢山ある。

地元スーパーマーケットへお買物に行きました。果物などは充実しています。ここでお土産に使うバリコーヒー、ジャワティーを買いました。物価はビール大瓶が220円、缶ビールは150円、米10kgで500円～900円（米は年3回収穫できる）。ガソリンは国の補助もあって1リッター40円・・・安い！国策！但し、ビール大瓶の値段はレストランで飲むと約450円、550円、650円とまちまち（税込21%）。一番の関心ごとゴルフ料金は・・・高い！クタエリアから1時間のところは18HでGフィー、キャディーフィーで18,000円位、2時間以上かかるゴルフ場でも15,000円位だそうです。

ゴルフ場は良いコースですが、一般大衆がやれる料金ではありません。9ホールで料金が半分位のコースがバリビーチホテルにあります。欧米人と現地インドネシア人で混んでいるそうです。ゴルフ料金を聞いたときにバリ島LSは私には無理だ！と・・・ゴルフ目的には全く向いていません。（お金のある人は全く問題ありませんが）でも、それ以上のバリ島の良さはきっとあるはずなのだ。

もう何年もバリ島に住み、現地の方々と生活を共にして、日本人らしくなく、すでにバリ人化している？現地会員の小林繁之様のご自宅見学に全員で押しかけて貴重なお話をたくさん聞きました。クタ地区から車で40分バリ島のカンブン(田舎)、チャングーという地区に小林邸は有ります。タナロット寺院のちょっと南の地区です。

3年前に訪問した時とは、周りの環境に大きな変化があり、あちこちでヴィラの建築ラッシュでコンビニなどもオープンしていました。ご自宅はバリ島独特の割れ門を入ると母屋2階建4部屋が正面に左側にプールとダイニングキッチン、右側にマッサージ室を兼ねた東屋風くつ

ろぎルームがあり、自宅から徒歩5分位でバリ島の波乗りのメッカの海岸に出られます。

小林さんが使用している部屋は1つで残り3部屋がお客様用として広いスタジオタイプの部屋になっており、バスタブ付きツインベッドと応接セットがあり長期滞在するには便利な作りです。

バリ島に芸術の勉強に来る人や語学の勉強に来る人などに部屋をお貸ししているそうです。南の会の会員さんにもお貸しするそうですから、直接メールでやり取りしてください。

但し、小林邸の周りにはネオン街はなく、自然がいっぱいです。ゆっくり欧米人型の休暇を過ごせる方にお勧めです。



小林氏のお宅にて

＝視察3日目＝

フリーの日があり各人がそれぞれ出かけて行きました。タクシーも多く、ガイド付きで1日チャーターして5000円弱で行った方もいました(日本からネットで申込み)。現地だと8000円。私は80歳のMさんとクタ地区のジャランジャンです。(散歩)クタ海岸を歩き、クタスクエアーショッピングプラザを目指して歩きました。バリ島一の繁華街でお店はいろいろありますが、よく見ると若い日本の女性ばかりでした。この時期は卒業旅行の季節で両手にいっぱい買物をしていました。私たちの年代になると買いたいものがなく、物欲がなくなりますね、お土産を見てまわり、お腹がすいたお昼には久々の和食料理を食べにホテルの日本料理店

に入り刺身定食を食べました。550円のお得なランチです。

夕方からバリ島のみならず世界で夕日の美しいポイントのタナロット寺院に向かいました。途中、タマン・アユン寺院も見物し神々が降臨するにふさわしい黄昏どきの神秘的な光景を眺めるために全員納得のビューポイントタナロット寺院、インド洋越しにジャワ島がかすみ、真っ赤な太陽が落ちて行く・・・タナロット寺院・すんばらし～

ここの物売りは悪名高いキンタマニーとは違い女子大生風の売り子でついつい絵ハガキなどを買った人もいたかな。夕飯はヌサドゥア地区のイタリアン料理、ちょっと有名なレストランみたいで混んでいましたね。ここのスタッフはとにかく明るいノナ・マニス(可愛い娘)でした。高台のこのレストランからは街の灯かり、インド洋がかすかに見えすばらしい夜景でした。

＝視察4日目＝

ブサキ寺院へ。バリ・ヒンドゥ教の神々を祀る神聖な雰囲気になった複合寺院、バリ・ヒンドゥ教の総本山。美しい11層の屋根が並ぶすばらしい寺院でしたが、霊峰アグン山が雲の中で見られなかったのは残念。人気のウブド王宮・パサールウブドの見物、スーパーマーケットに寄り人気のセッケンを皆で買い占めました。そしてホテルに帰る車中で現地ツアーガイドより、今日、東北地方で大きな地震が発生した事を知らされました。

ホテルに帰るとすぐにNHK・TVで信じられない津波の放送を見て驚き、すぐに日本に電話したが全く通じませんでした。他の方に日本からメールが届き東京の被害はそんなないと聞き安心しましたが、今度は帰りの心配がでてきました。

成田は降りられるのか、成田から東京方面の交通手段はあるのか・・・飛行機がとばない場合のホテルはどうするのか・・・飛行機代は追加料金がかかるのか心配だー。宿泊場所は小林様からご自宅をご自由に使って下さいとのありがたい申し出があり安心しました。旅行会社か

ら帰国便が変更になっても飛行機代の追加はないとのことで安心しました。最後はそんなこんなでバタバタしましたが、どうにかこうにか帰国できました。

バリ島の楽しみ方は色々ありますがチェンマイ生活と比べるとやはりコストは高い、バリ島の日本人は若い旅行者が断然多い。バリ人が日本人を見る目も旅行者。(4日～5日で帰っていく！)

短い期間の視察観光旅行ではあったがLSに向いているかと、問われれば観光には良いところですよと答えます。食べ物は油で揚げた料理が多い。日本人にもなじみの焼きそば(ミゴーレン)チャーハン(ナシゴーレン)毎日飽きます。鳥のから揚げ(アイアムゴーレン)サラダ(ガドガド)魚のから揚げ(イカン ゴーレン)串焼き(サテ・アイアム、カンビン、バビ)。

たった1週間でLSが良いとか向いてないとかではなく、個人差もありますので、まずは短期でバリ島～ジャワ島を旅行してみてください。良いところです、またバリ島には小林繁之様と

いう強い味方が南の会の会員さんがいます。小林さんが面倒見ますよと、おっしゃっています。

1週間の視察ツアーでしたがメンバーさんにも恵まれて楽しい時が過ごせました。南国暮らしの会の皆様はどこから集まろうが初対面でもすぐに打ち解け楽しい旅行になります。参加された皆様本当にありがとうございました。

3年たったらまたやろうかな・・・



バリ視察旅行



会員からの投稿写真



ワットシェントーン・ルアンパバン



ボロブドール

南米の旅④ 最終回 (アルゼンチン・パタゴニア(ブラジル)編)

関東甲信越支部 No.40 平澤 信

旅日程と VISA

'05.(平成17年)2.25(金)アルゼンチンのリオ・ガジェゴスから航空機で、世界最南端の街ウシュアイアへ。ここに4日間滞在の後、航空機で、首都ブエノスアイレスへ。

7日間滞在の後、3月7日(月)豪華バスに乗り、イグアスの滝(アルゼンチン→ブラジル)へ。

3月10日(木)滝見物を終えた後、ブラジルイグアスよりサンパウロ経由で、ロスアンゼルスへ。3日間滞在後、日本(成田)へ。

アルゼンチンは3か月間 VISA 不要。

ブラジルは要(ブラジル入国後、簡単に取得可、入国前にアルゼンチンでも所得可)。

世界最南端の街(ウシュアイア)へ

05.2.25(金)(平成17年)シーズン中で、込み合い、やっと手にしたウシュアイア行き航空券(アルゼンチン航空)130P(4,768円)は、当日の午後7時14分発のため、急ぎ宿泊ホテルをチェックアウトして空港に駆けつける。せかせかと飛び乗った飛行機の中で、昨日から私と先を競ってバスだ!飛行機だ!と飛びまわった年配のオーストラリア人も乗っていた。

彼は、私を見つけると親しげな笑顔を見せて「自分はオーストラリアで牧畜の仕事をしている農家で…」と自然が相手の牧畜の苦労話などをしてくれた。

簡単な機内食を取っている間、飛行機は真っ黒なマゼラン海峡を飛ぶこと約1時間、小雨降る寒い寒いウシュアイア空港に午後8時30分到着した。

ウシュアイアもご多分に漏れず、ホテルが満室で空港で紹介してくれたホテルに行って

見ると、ピラピラの安物カーテンが掛かっている酷いアバラ屋だったため、再度タクシーで観光案内所へ引き返しホテルを紹介してもらうことにした。

市の中心にある観光案内所は、今飛行機で着いたお客でゴった返していた。しかし、スタッフは皆親切で、気長に客の言い分を聞いてくれている。私は街の中心から歩いて10分、海の見えるこざっぱりしたホテル・マイテン\$31(3,300円朝食付)を紹介していただいた。

文字通り地の果てに来たのだが、あまりの寒さに温度計を見ると何と真夏に0℃であった。このホテルも本来P150(4,595円)の所、3泊以上は1泊\$30(3,300円)に割引してくれた。

世界で一番住み良い街?

このホテルのオーナーはイギリスから移住して来たと言う、物静かな感じのよいイギリス紳士で、このホテルのマイナス面をカバーして余りあるものを感じさせた。サービスも自然体でさり気なく、容姿もかなり美男の50歳前後であった。

つたない私の語学力に合わせて、ゆっくりと、そして嫌な顔もせずに何度も繰り返してくれる寛容さを好ましく思った。

疑問なのは、ここに文化と呼べるほどのものは無く、イギリス本土よりも寒い極寒の地に、何故彼らは移住したか? 問い詰めていくと、「祖先が囚人であった」とか悪い結果になりそうな気がして聞くのを辞めた。

この街の住み心地を聞いてみたら「寒いという事を除けば世界一住み易く良いところ…」との返事が返ってきた。兼高かおるさん

も真っ青になる答えだ。因みに私も真っ青になった。旅人として一度来るのは良いが、2度と来たいとは思わない極寒の地だ。

ウシュアイアから100キロ南下すれば、南極と言うだけに、とにかく寒い。到着の夜に降っていた小雨が、夜半雪に変わったらしく、翌朝窓を開けると、街も山も銀色一色の雪景色であった。真夏に雪が降る恐ろしい街だ！

「南国」を求めてトンでもないところに来てしまったようだ。

観光案内所では、ウシュアイアから10万円ほどで行ける「南極ツアー」の斡旋もしている。「南極には温泉もある」と日本人の温泉好きを承知していて、執拗に勧められたが、私は固辞した。南極で温泉でもあるまいに！

監獄博物館が観光名所？

この街の数少ない「観光名所」が元監獄で、外観は普通の2階建ての建物に見えるのだが、中に入ると、両側に監房がずらりと並んで、中央が吹き抜けになっている。この建物は、1920年に建てられたと説明された。多い時は政治犯を含む犯罪者など約600人を収容していたと言う。実際の政治犯を蟬人形で再現した独房や、2人部屋(?)など当時を再現した部屋も多くあるのだが、殆どの部屋は改造され、貸しアート・ギャラリーになっていた。

監獄の中など普通の庶民には縁が無く興味深く眺めた。面白かったのは、囚人達の大食堂をそのまま観光客用のレストランに改造して、そこで働くコックも、ウェイトレス達も黄色と黒の横縞の囚人服を着てコーヒーやケーキを運んでいたことだ(この服、上等な厚手の木綿)。

この監獄を維持管理するため、観光客にも「囚人服をお土産に買って欲しい」と言われたが、日本でこの服を着ていたら、訳もなく、「即逮捕」されそうな気がして買わなかった。

因みに、この刑務所の2人部屋は、南米で見かけた、多くの観光客用のツインルームよりも立派であったのは皮肉と言う他はない。

日本でも「網走の刑務所」は有名だったが、「囚人を極寒の地に…。」と言う発想は、囚人が脱走しにくいように世界共通のものなのか？

不思議なカニ雑炊を食す…。

この街の名物自慢料理に、「カニの炊き込みご飯と魚介のスープ」などが紹介されている。旅の途中を飛行機で飛んだため、鮮魚で有名なチリのプエルト・モンで鮮魚を食べ損なったので、かなり期待して出かけた。

レストランに入るや、カニの美味しそうな匂いが立ち込めていて、8人ほどのロシア人を含め、ほぼ店内は観光客で満席だった。

飲み物の注文もそこそこに、カニの炊き込みご飯と魚介のスープを頼んだ。

暫らくして出て来た炊き込みご飯は、ご飯と言うより汁が多い「カニ雑炊」と言った風で、雑炊には沢山のカニが入っているのだが、どうした訳か、カニの旨味が全くしない。魚介スープも、カニの他にイカや魚も沢山入っているのだが、魚介類の味ではない。イカは古くなったゴムを噛んでいるようだった。

ロシア人達は「トロイカ」を唄いながら大皿に山盛りの同じ料理を食べていた。

私は、この歌を聴いて、熱々のご飯で美味しいトロやイカの刺身を食わなくなった。

この店は有名店なのだが、たまたま「味覚が私と合わない店」だったのかと、レストランを何軒かハシゴしてみたが、どの店も同じであった。

3回目に入った店で日本の若者と同席した折、マズーイ「カニ料理」の話をするや若者は悪戯っぽく笑いながら言った。

「魚介類の店を沢山紹介しているけど“美味しい”とは一言も書いてないでしょう？エビやカニは旨いと、ご自分で勝手に思い込んだだけでしょう？だから僕は、この街では、揚げ物を食べています。味が少し誤魔化されて食べられますよ」とのこと。

その場で再度案内書を読み返して、納得。確かに美味しいとは、どこにも書いてない。

因みに、雑炊とスープのお値段は P39(1,431 円) と東京並みの料金であった。

ホテルに帰って美男子ーナーにこの事を聞いて見た。彼の説明によれば「チリの漁船は、冷凍設備が良くないため（冷氣急降下しないらしい）、捕れた魚介類は浜辺で一度蒸かすので、旨味が抜けてしまう。だが、チリの漁船に寄り添うように待機している日本の有名会社の船舶は冷凍設備が良く、直ぐに強力冷凍するから美味しさが保たれる」と言うのだが、これが事実かどうか確証はないが、ここの魚介料理は例外なく出がらしのようだったことだけは確かだ。

レトロな「世界の果て号」に乗って

05.2.27（日）。この街の観光の目玉である、ヤマナ族（原住民）の住居地跡訪問のため、「世界の果て号」と言うレトロな列車に乗ってティラ・デル・フェゴ国立公園へ出かける。

列車は往復 P50（1,834 円）。この他に国立公園の入場料として P12（440 円）が必要。

客の殆どが観光客のため、列車はこの公園の観光案内を車内放送してくれる。

ただし、スペイン語であったため、私は理解できなかった。幸い、相席にブラジルから観光で来たと言う年配の日本人ご夫婦と一緒に、彼らがこの放送を通訳してくれた。

ブラジル在住の、このご夫妻の説明によれば「80 年前、広大なこの公園の樹木を切り倒し、蔭にして暖を取ったため、公園は今のよう草だけの裸山となってしまった。しかもこの鉄道を建設し、木材を運んだのは他ならぬ、監獄に収監されている 600 人の囚人達であった。ウシュアイアでは、過ちに気が付いて数年前から植林を始めたが、寒いところなので、樹木は中々育たない」とのこと。

地平線まで続く美しい緑の中に、黒々と炭化した昔の切り株が転々と残る景色は無残な屍を見る思いがする。

この日は、あいにくの雨であったが、公園内の緑は一段と冴えて美しく、澄んだ空気や水は、寒さの故か南米と言うより北欧を思わ

せる風景であった。

ヤマナ族（原住民）をこんな地の果てに追い詰めたのは白人達で、みすばらしいヤマナ族の住居跡は自然の中では素朴で美しいけれども、ここは人の住めるところではない。

「世界の果て号」の車内は、普通の相席の他に、テーブルの付いたラウンジ風の席や、サロン席もあり趣のある列車だ。勿論お客は自由に車両を選ぶ事が出来る。

おぬし達、首絞め強盗の味方？

一緒に乗り合わせた、ブラジルから観光に来たご夫婦と共に、悲しげなヤマナ族の住居跡のある公園内の散策を楽しんだ。

ウシュアイアの旅の後、私がブラジルへも行く事を彼らに話すと、28 年間ブラジルで暮らしているという彼らが「ブラジルで安全に過ごすためのノウハウ」を次のように伝授してくれた。

「ブラジルには、スリ、置き引き、かっぱらいの他に“首絞め強盗”がいる。この強盗達はプロなので、相手を殺すことなく 5 秒間で失神させ貴重品を奪い取る術を知っている。

こんな時は決して抵抗せず直ぐに小銭入りの財布を渡すこと。過日、「欲の皮の突っ張ったドイツ人が、高価なカメラを取られまいと抵抗して殺された」（彼らのこの言い方を私は気に入らない。特に下線部分）と強盗に抵抗してヒドイ目にあった事例を次々に披露してくれた。極めつけは、サンパウロで首絞め強盗に抵抗したため、大怪我をした日本の若者に対し「眼々クソほどのお金にしがみついて…。」と、その迂闊さを憎々し気に非難した時は、この人達は「首絞め強盗の味方か？」と思うほどであった。

何事があったとしても、強盗の方が悪いに決まっているものを…。

「世界の果て号」から帰った日の夕刻、ウシュアイアのホテル近くを散歩して思うに、堅牢で大きな住居や一家で数台の車を持つなど、庶民の生活は豊かな感じがした。

数日間お世話になった最果ての地ウシュア

イア。私はもうここに来る事もないと思うが、この街に住む人達は、毎日この寒さと向き合わなければならない。

「南国」を求めて旅する者にとって、寒いと言うだけで喜びが半減するような気がした。

アルゼンチンの首都ブエノスアイレスへ

06.2.28（月）（平成17年）～3.7（月）までの8日間、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに滞在。

ウシュアイア発 10：20→アルゼンチン着 13：50（3時間30分の空の旅）。バリグ航空、片道運賃\$309.94（32,854円）これも高～。

上空から見るブエノスアイレスは、かなり大きな洗練された都市に見えた。南米のパリと言うらしいが、緑が多く街並みも美しい。

この国も、経済的には破綻状態にあり、日本からの援助も多いと聞いているが、実際に街を歩いて見て、人々の暮らし振りは少しも貧しい感じは受けなかった。

私の宿泊ホテルは、ブエノスアイレスのほぼ中央のフロリダ通りに近い、コロニアル風のホテル・コルトバと決めていた。室代が軒並み値上がりしている中で、このホテルだけは良心的な値段であったことが決め手となった。長期割引値段1泊P65（2,370円）。

なぜかホテルにYさんが…。

到着日の夕方、ホテルのフロントで電話をしていると、見覚えのある日本人女性がホテルのロビーに入ってくるのが見えた。

誰だろう、私がチリのカラマで強引に別行動を申し出たYさんではないか。

彼女は私を見つけると、すっかりご機嫌は治って懐かしそうに駆け寄ってきて、その後の旅の経過など話してくれた。

それにしても星の数ほどあるブエノスアイレスのホテルの中で、何故同じホテルに？深く考えるまでもなく、同じような日程で、懐具合も貧しい旅をしているため、選ぶホテルも似たようなところになってしまうと、苦笑を禁じ得ない。

私の部屋には、テレビ、バスタブ、エアコン、バルコニーも付いている比較的良い部屋なのだが、外出時フロントに鍵を預けると自動的に「部屋の冷房を切る」と言う節電に対する徹底振りにはさすがと言うほかはない。

外出先から帰った時「冷房を入れて欲しい」と言わないと、本人が部屋にいることが分かっても冷房は入らない。

地球温暖化を考えれば斬新的で、合理的なのかも知れない。

フロントで私が「冷房を…」と言っているのを聞いて、Yさんは「アレー冷房入るの？」私は、その都度言わなければ入らない事を教えてあげた。

Yさんは「フロントがその事を言ってくれないから損した！冷房を…」と命令口調の尖がった声で言った。すると、フロントの男性が「マダムあなたの部屋に冷房は入らない。シングルの特安室だから…」と言った。Yさんは怒りの拳の持って行き場に困った。

このやり取りを聞いて、やっぱりこの人と別行動で良かったと思った。

翌朝ホテルの朝食で、再度Yさんに出あった。彼女は通常、朝7時に朝食を取ることを知っていたので、私はいつも通り8時にホテルのレストランに行ってみると、Yさんが入り口の方を向いて座っている。

別行動を切り出した時の怒りようからして、「私と顔を合わせるのは気まずいのでは…」と気を遣ったのだが、そんな事は全く無かったかのように、このホテル滞在中、私の朝食時間に合わせて待ってくれている。心が寛大なのか、物忘れが激しいのか？こちらが面食らった。

人の心を傷つける人の多くは、「自分が言った言葉は、水に書いた文字のようにすぐに消えてしまうと思うようだが、傷ついた人は、石に刻印されたように忘れない」の言葉を思い出した。

「入船」のすし

3月1日（火）。ブエノスアイレスに住む富

崎治子さんが私の滞在ホテルを来訪。

お互い日本人と言うだけで、何の共通性もないのだが、何故か話題が尽きない。

治子さんは13歳までしか日本に住んでいなかったのに、「すし・そば・ご飯」は好物で、53年経過した今も、しっかりと大腦にインプットされていたようだ。

この日夕刻、私達は、ホテル近くの日本人経営の「入船」と言うすし屋に出かけた。

豆絞りの鉢巻姿も凛々しい若い衆から「いらっしゃい」と声を掛けられると、築地辺りのすし屋にいるような錯覚に陥る。

治子さんは、お気に入りの「握りすし (P25 (910 円))」、私は「焼き魚定食 P23 (837 円)。

異国でこんな美味しいすしを食べられるとは思わなかった。日本より安い金額だが、ブエノスアイレスでは高級料理で、治子さんはめったにすしを食べないと言った。

驚いた事に、ここのお客の90%は外国人(現地ブエノス人や欧米からの旅行者)で、店内に日本人の姿は殆どなかった。昼も夜も混み合っているところを見ると「すし」はこの地に定着したのだと思う。殆どの人が、箸も上手に使っている。

「世界一長寿国の食文化の奥儀を知ったか!」と、少しばかりのお酒ですっかり上機嫌になった治子さんと怪気炎をあげた。

しかし、日本料理店だからであろうか、店内には彼らの方が大勢なのに、少人数の日本人達(私達)にどことなく遠慮しているような素振りが見えて、とても初々しく感じた。これが食文化と言う物じゃ。

この店に、殆ど毎日のように部下と思しき若い女性達を連れて、おすしを食べに来る40代くらいの常連客が、連れの若い女性に怪しげな「箸の持ち方」を伝授しているのも可笑しかった。治子さんと私に同意を求めるような視線で、軽く頷くので、「少し違っているけどまあいっか」と笑いながら頷き返した。

このお客達はおすし1人前では足りず、テニコ盛りの白いご飯が真っ黒になるほどお醤油をかけて食べていた。このご飯を見るにつ

け、おすしを食べるからと言って「日本食通」とも言えないと思った。アツアツご飯にお醤油、やっぱ日本食通なのかな?

治子さんのお宅と

スペイン人のマリーさん宅訪問

3月3日(木) 前回治子さんにお目にかかったペリトモレノの氷河で、私が「訪問した国の普通の生活を拝見するのが何よりの楽しみ…」と言ったことを治子さんは覚えていて下さって、ご自分の住まいの他にスペインからの移住者で、親友のマリーさんのお宅まで連れて行ってくださった。

マリーさん宅は、古い高層建ての4階の住まいで、広さは約43㎡くらいに、寝室と居間兼台所の2部屋で、この国の基準からすれば狭いと思った。建物が古いせいか窓も小さく昼間も電気をつける暗さだ。

だが、室内は清潔に掃除されて、お花や人形などが飾られていた。外国の住まいは、一般的に暗いと思うのだが、日本を訪れた事のある外国人は異口同音に「日本は、街も部屋の中も明る過ぎて眼が疲れる」と言われた事が何度もある。私達アジア人は、瞳の色が黒か茶で、ブルーやグリーンの明るい瞳より光を多く必要とするのではないかと平澤珍学説を展開して見た。

治子さんのお宅は、市の中心を少し北へ行ったレコレーター墓地へ車で5分ほどの位置にあった。17階建ての8階だったと思う。

彼女は、「私達の家は、貴方の見たがっている普通の人の暮らしより少し下だけど…」と言われたが、70㎡ほどの明るい部屋は風通しもよく快適であった。日本人なら、直ぐに間仕切りをして部屋数を多くするのだが、寝室や台所、洗面室の他は全部フリーで、広い広い居間になっている。

「この程度の生活と見るか、移民が良くここまで…。と言えるのか自分では判断できない」と治子さんは言ったが、私が見た限り「努力した分の報いはあったのでは…。」と思う。

治子さんは移住の時、13歳になっていたに

も拘らず、ブエノスアイレスの小学校の1年生から入り直し、高校を卒業後、大学では経済を専攻して、今なお「公認会計士」として働いているとの事。

年金は日本円にすると5万円程度で、生活のために働く必要はないのだが、外で働く事が好きだから働いているとの事。(この年金額は、アルゼンチンではかなりの高額らしい)

ドイツ人男性と結婚したのだが、数年前に死別、子供はなく、今は1人の暮らしを楽しんでいる由。因みに「夫とは惜しみなく愛し合ったので後顧の憂いは無い」との事。

太平洋戦争で実父は戦死され、神戸の家も焼け、一家は路頭に迷ったようだ。

戦前は、広大な屋敷にお手伝いさんが3人もいる裕福な家庭に育ったが、働き手を失った家の没落は子供心にもよく理解できた。

3人の子供達を育てるため、治子さんの母親は、前夫より見劣りのする男性と再婚されたとのこと(見た目も、人格も、学歴も)。

焼け野原の神戸からブエノスアイレスに移住した当時は、「何と美しい国へ来たのかと、家族で喜び合った」のだが、60年と言う歳月は無残にも両国の経済を逆転させてしまった。

義父さんが臨終の折に家族を呼んで、「自分の野心のために、アルゼンチンまで来てしまったが、今の日本の繁栄を見るにつけ、異国の骸(むくろ)になる事が、お前達家族に取って良かったかどうか忸怩(じくじ)たる思いが残る…」と言って息を引き取られたと言う。覚悟を決めての移住だった筈なのに…。

人間に取って祖国とは一体何なんだろう？胸塞がるる思いでお話を伺った。

治子さんが、幼い日を過ごした神戸の家や庭の写真はセピア色に霞んでいたが、彼女にとっては大切な宝物なのであろう。

治子さんの自宅訪問の日「車で迎えに来て良かったけど…」と言いながら、私をわざわざ地下鉄駅に案内してくださった。

そこで目にした電車は、赤い車体に白いラインの入った東京でついこの間まで走っていた「地下鉄丸の内線」そのものであった。

「乗務員室・自動扉」等の日本の文字もそのまま、颯爽と電車が入ってきた時、「ハテ自分は一体どこにいるのか？」不思議な気持ちになった。

治子さんは私の驚く様子を愉しんでいるようだった。以前、バンコクの繁華街の交差点で、「栃木警察」と書かれた車が私の乗っていたタクシーの横に留まった時以来の驚きだった。因みにブエノスアイレスでは、5本の地下鉄が走っていた。

タンゴショーで見た物は？

ブエノスアイレスの繁華街を歩くと、道端のあちこちでアルゼンチン・タンゴを踊るカップルを見ることが出来る。時間によっては5・6組のカップルが入替わり、立替り踊ってくれる。肢体を絡ませ情熱的に悩ましげに踊るタンゴは何度見ても飽きない。

旅人が希望すれば、好みのダンサーと一緒にポーズも取ってくれる。見るのは全て無料。

この人達の収入源は、自分達独自のCDを創っていて、観光客はお気に入りのダンサーのCDを購入できる。私もお気に入りのカップルのCDを買って来て、かの地に思い馳せながら時々聞いている。

CDのお値段は、1枚P25(911円)。

道端でこれほどのショーを見られるならば本格的なショーはどんなに凄いか行って見たくなった。

ホテルの近くに、日本人の2世と3世母娘が経営する鈴木エージェンシーで購入のチケットは、ブエノスアイレスで一番高級のタンゴ・ショウだと紹介された。夕食付き、飲み物は酒類も含んで飲み放題。

お値段は、170ペソ(6,192円)。高いか安いかは基準が分からないので不明。

鈴木さんがディナーのメインデッシュは魚か肉を選ぶのだが、「ステーキの方が断然美味しいから肉を…」と勧められた。

3月4日(金)夜のタンゴショー当日、送迎車がホテルまで来てくれた。既に3人の先客が乗っていて、お互いに自己紹介をしたら、

ブラジル人の家族（若いご夫婦と夫の母で、モレシャンさんそっくりの人）と、分かった。

有名な4つ星のHホテル前でも停まったが、客が中々出てこない。運転手は「高級ホテルに泊まる奴は人の迷惑を考えない傲慢者が多くて遺憾！」とぼやく。

10分近く待ったが、誰も出てこない。運転手は業を煮やして、フロントまで走って確認すると、ドアの近くに最初から立って外を見ていたビル清掃員風の身なりの老女が、我々の待ち人と分かった。

身なりで人を判断してはいけない！でも、ゴム長を履き、頬かむりした彼女の格好を思うと可笑しさを噛み殺して笑いに笑った。

最後に車に乗って来たのは30、40代と思しき黒いドレスに長い髪、コーヒブラウンの肌の妖艶な女性。バラータンゴ口にくわえれば、カルメンのよう。

清掃員風とカルメン風と我々の混合部隊は連れ立ってタンゴショーへ。

郊外にある立派な会場は、ラスベガスを思わせる派手派手なネオンが眩しく、着飾った大勢の男女が会場に彩りを添えている。

楽しみにしていたディナーは、一流ホテル並みの気持ちの良いサービスで満足した。魚より確かに肉の方が美味しかったが、出てきたステーキの大きさには、誰もが圧倒された。

巨漢達の殆どが、半分ほど残していたから、その大きさがお分かり頂けると思う。

ショーの内容は観光客を楽しませる事に徹底した演出がなされ、大勢の美男美女達が天女の舞いの様に美しく、滑るようなショーで飽きさせないのだが、強いて言えば、地元の臭い臭いアルゼンチン・タンゴ臭の殆ど消されていたのが少し残念だった。

同席のカルメンは少し馴れ馴れしい感じがしたが、私は気にも留めなかった。

でも、ブラジル人家族は車内でも、食事中も全く話しかけることもなく、彼女を忌み嫌っていると言う感じであった。

ン、何故だろう？ だが、その原因は直ぐに分かった。彼女はショーの最中にも全くシ

ョーを見ていない。何をしているかと言えば、ショーを見に来た初対面の男達の誰彼かまわず絡み付くような媚態を見せている。そうです。春を売る女性だったのです。

休憩時間中も男アサリに懸命だったが、獲物は見つからず、今日は駄目かと思ったのだが、帰り際、痩せて貧相なラテン系の男性の1人と交渉が成立したようだ。客を捕まえた事が良かったような悪かったような…。ブラジル人家族は最後まで、全く無視していた。

世界3大瀑布として名高い

アルゼンチンイグアスへの豪華バス

3月7日（月）午後6時50分ブエノスアイレス発の超豪華なバスで、イグアスの滝に向かう。1泊2日のこの高級夜行バスは航空機のビジネスクラスよりも立派だった。

席はほぼ水平に倒れ、椅子の広さは、お相撲さんくらいの肥満体の人でもゆったりと寝返りが打てる。

鈴木エージェンシーから、「豪華な食事は出ないかも…」と言われて「おにぎり」を持って乗ったが、全く食の心配はいらなかった。

魚も肉も出るフルコースで、最後にコーヒから果物・お菓子まで出た。従っておにぎりの出番はなかった。ワインなどの酒類も勿論飲み放題。

バスの前方席は総ガラス張りのサロンになっていて、外の景色を眺めながらくつろげる。バスの2階席20人、1階席10人程度で、1階席の殆どが、お客のための食料や電子レンジ等の台所用品で占められている。

ずっと乗っていたいこの快適バスは、夕食、翌朝の朝食込みの1泊2日で、チケット代P105（3,825円）。このサービスでこの値段、満足のいくものであった。

アマゾンの熱帯雨林の中を、真直ぐな道路が走っていて、窓の両側から、小鳥の声を聴き、夜は星を眺めながら走るバスの心地良さは例えようがない。特に、明け方の、朝もやのかかった熱帯雨林は、極楽浄土かと思うほどほど幻想的で美しかった。

プエルト・イグアス（アルゼンチン側）

3月8日（火）12時、滝の街へ到着した。

素朴で小さなこの街の風景はとても好きなのだが、世界有数の大瀑布が無ければ外国人など誰ひとり来ないと思うのどかな街だ。

バスターミナルの向かい側に沢山のホテルがあって、しかも安い。私の泊まった結構なツインルーム（レジデンシャル・パキータ）は、P30（1,093円で、朝食付き、広い庭にニワトリや猫もいる。懐かしいようなこの風景は、私達が子供の頃の田舎の風景のようだ。

だが、焼け付くような暑さに、当日滝を見に行く時間は充分あったのだが、気持ちが萎えてしまったので、ホテルで猫達とぐったりして過ごす。

翌早朝（9日水）、滝へ行くバスに乗る。緑のトンネルの中を走り、専用電車に乗り、暫らく歩くと、この滝の見せ場である「悪魔の咽笛」と命名された巨大な滝へ出る。川底に苔でも生えているのであろうか、淡い緑色の大量の水が、もんどりうって滝壺へ落ちていく様子は、恐怖さえ感じる迫力だ。水中に生き物が入っていて唸り声を上げているように見える。沢山の日本人観光客もいた。

大小300もの滝の見せ場には、必ず見晴台があり誰もがお気に入りの場所で楽しめる。

ブラジル側にもまたがるイグアスの滝は、その幅4km。最大落差80m。毎秒6万5千トンの水量とパンフレットには書いてある。

広大な国立公園の中で、いささか迷子気味になっている時、ブラジルへのVISAを取りに行った時ブラジル領事館で一緒だった伊勢君（K大4年生）にばったり出会った。

彼は就職も決まり、卒業旅行に南米を選んで一人旅をしている最中であつた。旅するための資金は父親には内緒で母親が調達してくれたので、初めて手にするはずの夏と冬のボーナスは返済のため既にないのだ。とこぼしていた。どこの母親も子供には甘いのだ。

彼は、方向感覚がとてもよく、この滝のハイライトを次々に案内してくれる。そして、今日私が行くブラジル側のイグアスの街で安

くて良い宿を紹介してくれるなど、有難い存在だった。頭の回転が速く、親切、自然体で嫌味のない爽やかさ。ご両親に大切に育てられたのだと思う。就職先の政府系金融機関で、この爽やかさを失わないで欲しいと願わずにはいられない。

フォスト・ド・イグアス（ブラジル側）

3月9日（水）興に乗ってこの日のうちにバスで、ブラジル側へ移動。地元の人達に1人混じってブラジルへ入国。イミグレーションで、私だけバスから降ろされ入国手続き。

旅人は誰もいないイミグレーションのバス停で次のバスを待つこと50分。灼熱の太陽に焼かれた道路に直接座っているとサウナに入った時のように汗が流れる。

バスで到着したブラジル側イグアスの街は、アルゼンチンと側と違い、猥雑で大きな街であつた。

伊勢君が紹介してくれたホテルへ行ってみると、TVも冷蔵庫も、そして工場のような騒音の出るACもついているのだが、お世辞にも良い部屋とは言いがたい。

伊勢君が心配して、「お部屋替わりましょうか？」と言ってくれたが、彼の部屋も似たようなみすぼらしさだった。1泊だけなのでここで我慢する事にした。

この「サンレモ・ホテル」は、P52.5（2,084円）。大河1つ挟んで、ブラジルへ来ると倍近い金額になり、アルゼンチンの牧歌的なパキータ・ホテルが懐かしい。

この日の夕方、鶏料理が美味しいと言う伊勢君推薦のレストランへ出掛けた。

白いテーブルクロスが掛かった、こざっぱりとしたレストランで、久々にワインを飲み、鶏料理と、ソーセージ、パゲッティ、サラダの質素な食事をする。鶏肉のシコシコ感は癖になる美味しさだ。日本で食べる鶏とは風味がかなり違う。伊勢君は、「きっと地鶏でしょう」と言ったが、地鶏か否かは不明。

夕食代は2人分で、P51（2,026円）。この辺りでは良いレストランであつたから、多分

高かったのだと思う。レストランから帰る夜道で「首締め強盗」が出たらどうしようと、心配もあったが、若くて屈強な伊勢君が一緒だから、この夜は何の心配もなかった。

翌朝、朝食後、伊勢君と連れ立ってブラジル・イグアスの滝へ。

滝まで小1時間、整備の行き届いた公園内を通り、滝へ向かった。アルゼンチン側に負けず公園内は美しいのだが、何故かお客はアルゼンチン側に比べて3分の1にも満たない人の数だ。

昨日、アルゼンチン・イグアスで逢った日本人の男性が「ブラジル側は滝の全体が見えるだけで詰らないから行かない」と言っていたが、この客数からして本当につまらないのだろうか？

だが、実際私達が目にした滝は、アルゼンチン側の「悪魔の咽笛」には少し迫力で劣るものの、カナダのナイアガラの滝ほどはあるような気がした。両国の巨大な滝の全容が見え、陽のある時間帯は美しい虹を見ることが出来たことに、私は感激した。橋を渡って滝の真下近くで滝を仰ぎ見て、しぶきを浴び、心を震わせながら滝の見物を終わる。私は、決して詰まらなくはなかった。

この巨大な滝を見たことで、大自然の営みを畏敬の念で眺めた。たかが水、されど水、けれども息を飲む光景である。水の織り成す自然の芸術に勝るものはない。1分間に6万5千トンの水の迫力はわざわざ見に行く価値がある。悪魔の咽笛を正面から見たのも圧巻だった。

これで世界の3大瀑布を見たのだが、カナダのナイアガラは優美で美しく、ジンバブエ（アフリカ）のビクトリアの滝は、落差120m（？）コーラ色の水で襲い掛かってくるような豪快さ。そして、イグアスは一番規模が大きく、変化に富んでいたと思う。

私は今まで、大自然を少し軽んじてきたように思う。だが、南米に来てアンデス山脈を、アマゾンの熱帯雨林を、アタカマ砂漠、ペリトモレノ氷河、マゼラン海峡、ビーグル水道

などの大自然に接した時、我を忘れてひれ伏してしまった。

翌日（3月10日（木））、ブラジル・イグアスから、ブラジルのサンパウロ経由でロスアンゼルスへ戻ったのだが、この時のバリグ航空のチケット代は信じられない高額で、片道US\$1,452.05（153,917円）で、私は自己破産状態になった。日本へ帰ったら、しばらくは水を飲み、パンの耳をかじって世捨て人の生活を強いられることになる。いろんな国を旅したが、これほど高いチケット代は始めてで、忘れることのできない思い出だ。

忘れることのできない、もうひとつの出来事は、この日、空港へ向かうタクシーから見たサンパウロの昼の気温53℃、湿度0%。汗は沢山出ていても全部蒸発して、顔や体をつたうことはない。要するに汗は流れず、顔が塩を吹いているだけだった。運転手に冷房を入れてほしいと頼んだら、「この車に冷房は付いていない」との返事。2人で、茹蛸のような赤い顔で空港へと向かった。この暑さも尋常ではなかった。

再びの「ロスアンゼルス」

（ブラジルのサンパウロ経由）

3月10日（土）18:30 ブラジルのイグアスから、サンパウロ経由で国際線に乗り換え、ロスアンゼルス行きのバリグ・エアーに搭乗。

サンパウロまで、2~3時間のフライトだったように思う。サンパウロまでの国内線の機内食は2回出たのだが、サンドイッチに飲み物程度の軽食であった。サンパウロでロスアンゼルス行きの国際線を待つ2時間の間に、会員制の待合室でメールをチェックする。

パソコンを開くと、私が見たこともない可愛い仕草の我が家の愛猫、ミミちゃんの写真がメールから現れた時は、人目もはばからず歓声を上げてしまった。ミミを預かって下さっているHさんの心憎いばかりの暖かな心遣いであった。

ロスアンゼルス行きは、23:00頃だったと思うが、深夜24:30頃かなりボリュームのあ

る食事が出された。これが夕食だったのかも知れない。真夜中のディナー。時差の関係もあって、この辺から時間の感覚をすっかり失ってしまった。多分8時間くらいのフライト(?)だったと思う。数時間眠った後、朝食風の軽い2度目の食事も出た。ロスアンゼルスには現地時間の朝7時ピッタリに到着した。前々から、一度行って見たいと思っていたダウンタウンのホテル「リトル東京」へ。

「リトル東京」に住む人々

3月11日(金)日本人女性のKさんが経営するこのホテルは\$40(4,240)と料金がガイドブックの表示と変わっていなかった。

彼女は、日本人が利用するであろう殆どのロス発着便の時間が頭に入っている。にも拘らず、早朝の変な時間に到着した私が、ブラジルから来たことを知ると「ブラジルから?」と訝ったが、快く迎え入れてくださった。

室は、清潔で使い勝手の良さをこれほど考えたホテルを見たのは久々だ。さすが日本人のセンスの良さよ! 民芸調のライティング、ビューローもあり、居心地は満点。

38室中30室が1か月以上の長期滞在者で、語学留学中の年配男性が数人と、演劇の勉強で来ている若い女性等日本人が多かったが、韓国、中国、ヒスパニック系、北欧からの人達もいた。中には10年以上住み着いているハワイ生まれの日系2世のOさんもいた。

彼は、重い糖尿病で目が良く見えない上、日本語も殆ど話せないのにこのホテルにいるという。日本人の血が呼ぶのであろうか?

Oさんは身寄りのない80代の男性で「万一の時はどうしたら...。」とホテル経営のKさんは深刻な顔をした。

このホテルの面白い体験と言えば語幣があるが、50歳前後と思しき日本女性が、8年もこのホテルに住んでいたことだ。

「私は変わり者」と本人は言ったが、8年

の間、「誰も彼女の部屋の中を見た人がない」とKさんは言った。

私は興味津々。深く考えもせず、ダメ元でこの女性に入室をお願いして見た。

すると意外や意外「今まで誰も入れたことはないけど... ちょっとだけよ」と言いながらも招き入れて下さった。人間の生首でも乾してあるのかとドキドキしたその秘密の花園は、部屋全体が深い森の中に入ったような飾り付けで、一番奥に小さなお仏壇があった。「母の位牌が入っている」のだと言う。

仏壇の母が寂しくないように、常時ランプを灯しているのだと説明してくれた。確かに珍しい部屋であった。この人は「人間嫌い」の性格なのかと思ったのだが、今逢ったばかりの私に、ご自分の生い立ちや、身の上話をポツリ、ポツリと話した所を見ると、本人が言うほどの変わり者ではないと思った。

彼女もまた身寄りがなく「天涯孤独なのだ」と言っていたが、母の位牌の入ったお仏壇が心の支えとは...。あの世の母と交信できる訳でもないであろうに。

言葉少なに話された広島生まれの彼女の話から、焼け付くような孤独感が伝わってきた。

興味本位で、「部屋、見せて下さい」等と言ってしまった事を深く後悔した。

リトル東京にいと外国にいる気がしない。飲食店の多くは、日本語だけで事足りる。なぜこの街に沢山の日本人が住むようになったかは、時差調整のための短い滞在だったので深い事情は分からなかった。

しかし、なぜか出会った人々の多くが、悲しい過去を背負った高齢者が多く、話を聞いていると気持ちが沈みがちになった。

でも、不思議な懐かしさのある街であった。

今回の旅も終わった。この90日間、下痢、腹痛との戦いで、1日として正常な腹具合の日のなかった苦しい旅であったが、何故か懐かしく、又行きたい気持ちのする南米である。

支 部 便 り

チェンマイ支部便り

チェンマイ支部 №723 山本 幹夫

チェンマイを大変愛されておられた故 酒匂元理事長のご冥福を山口支部長始め、滞在者一同、心からお祈り申し上げます。

今回は、チェンマイでの1会員の日常生活を紹介させて戴く事により、支部便りに変えさせて戴きます。

私達夫婦は、昨年9月中旬にチェンマイに到着して以来、3月で滞在約、半年となります。

在東京タイ大使館では、2ヶ月間滞在できる観光ビザを取得し、更に1年間滞在するためのリタイアメント ビザをチェンマイで取る事にしました。具体的には、会報新年号で加藤 進平様が紹介していた3種類の方法の内、現金80万バーツ（夫婦で160万バーツ）を銀行に預金する方法です。尚、現金の持ち出し及び持ち込み制限を越えている為、成田及びチェンマイの税関で申告しております。

当地到着翌日、市内の両替屋で円をバーツに換え、バンコク銀行ニマンヘミン支店で夫婦各々の名義の定期預金口座を開き、入金しました。銀行では、日本語の出来る副支店長に対応して戴き、スムーズに進みました。リタイアメント ビザへの切り替え時期は、観光ビザの切れる約1ヶ月前が目途であり、銀行での残高証明書、パスポート原本、及びコピー、ビザ申請書、写真等、必要書類を揃えて、10月中旬にイミグレへ出掛け、3ヶ月滞在のリタイアメント ビザを取得しました。

その後、期限切れの1ヶ月前の12月中旬に再度、前回と同様の書類を揃えて、イミグレに申請し、1年有効のビザを取得しました。現在のタイの制度では、最初に3ヶ月、次回から各1年で煩雑ですが仕方がないようです。又、並行して、90日滞在の申告が必要であり、滞

在90日目の1週間前毎にイミグレで滞在の申告をしております。

現在の住まいは、会員の方の多くが住んでおられる街の西側ではなく、東側のピン川に近いドイピン マンションで、同じコンドミニウムに住んでおられる、山口支部長に各部屋を見せて戴き、こちらを借りる事に致しました。因みに2寝室、計約100平米で14,000バーツ/月の家賃です（2月現在1バーツ約2.75円）。このコンドミニウムはムアンマイ市場、ワローロット市場、リンピン スーパーマーケット等が近く、生活に便利な場所に在ります。

チェンマイの良い所は、冬季に気候が温暖で、同好の仲間が多く、すぐにグループに参加させて戴けることだと思います。現在、卓球が週3回（月、水、土の午後）、バドミントンが週3回（月、木、土の午前）、テニスが週2回（木、土の午前）に参加させて戴いています。その他に、週1回、夫婦でテニスの個人レッスンを受けており、重なる部分が有りますので、全てに出席は出来ませんが、ほぼ、毎日出掛けております。個人レッスンの費用も安く、妻が受けている卓球は、1時間250バーツ、テニスは2人で1時間300バーツです。

尚、会場が夫々異なり、ソンテウで通うには不便であるので、120ccのレンタルバイクを借りる事とし、運転免許を取得しました。日本の免許証を領事館で翻訳して貰い、普通乗用車とバイクの免許を、陸運事務所の免許センターに同時申請しましたが、バイクについては、私の免許は50cc迄であるので法規と実地の試験を受ける必要がありました。

日常の生活は運動ばかりでなく、小旅行にも出掛けております。地元日本在住者の会主催のフミポン ダム（東南アジアで最大級）への小旅行ゲスト参加、会員の方と1月に一緒に行ったドイプイ（ドイステープの奥）の花見、旅行社による日本人、外国人混載のゴールデン

トライアングルへの旅、又、会員の方と一緒にチェンダオへの旅（乗り合いバスで北へ約2時間、温泉入浴、ねぎぼうず村タイリゾート宿泊）等ですが、非常に印象に残ったのは、ミャンマー国境に近いメーホソン県のクンヤムへの旅です。

ここには、日本人のそろばん教師、日本語教師の2名のボランティアが在住され、学校で夫々、無給で指導されています。偶々、日本からのボランティアが訪問され、我々、2組の夫婦も合流させて貰い、日本キャンプを開催し、日本語教室、運動会等で子供達と交流して来ました。

このクンヤムと云う村は、第二次世界大戦インパール作戦での傷病軍人がお世話になった所であり、寺の境内が野戦病院となり、亡くなられた方の遺体の一部は、井戸に投げ込まれて処理されたと言われています。戦争博物館では、旧日本軍の遺品等が展示されており、戦争の惨さに強い怒りと衝撃を感じました。周辺には、少なくとも3箇所の慰霊塔が建てられ、在住の日本人ボランティアの方が、毎日、掃除をしておられるとの事でした。

話しは一転しますが、チェンマイは観光都市であり、種々の素晴らしい催しが開催されます。

旧暦12月の満月（現在の11月）に行われるローイ・クラトンでは、ピン川沿いで灯籠を流し、周辺で花火大会が行われます。特に、車で数十分北上したメジョーと言う所ではコムローイ（熱気球）が一斉に空に上げられ、大変幻想的で一見の価値があります。

又、11月下旬に行われるイーブンーランナー（日本ー北タイ）交流祭りで行われるパレード、盆踊り、カラオケ大会等、1月下旬に行われるポーサンでの傘祭り、更に、2月上旬の花祭りでの美しいパレード等、充分に楽しめるものです。4月に行われるソンクラーン祭りの水掛は今から楽しみにしております。

通常のサロン会参加者は20から50名程度ですが年末～2月は60～80名程度と急激に増え、空気が汚染されてくる4月からの酷暑季では、

波が引くように激減し、チェンマイはまた閑散となります。

我々夫婦が、チェンマイ滞在を考えたのは、約5年間続いた海外生活が昨年5月に終わり、日本に戻りましたが、何か落ち着かないものを感じ、最低1年間を目途に当地に住む事にしました。

日本での準備期間が短く、故酒匂元理事長から沢山の情報をチェンマイから戴き、また、チェンマイ到着後も、翌日、アマリリンカムでブリーフィングをして戴き、その情報に基づいて10数件のコンドミニウムを見て回りました。つい最近までお元気ではつらつとしていらっしやったのに大変残念です。

諸先輩が築かれたチェンマイでの会員同士の助け合いの良き伝統が今後も長く続く事を祈念しまして、支部便りを終わらせて戴きます。



メジョーのコムロイ（熱気球）



花祭りパレード

平成 22 年度ハワイ支部活動情報

ハワイ支部支部長代行 № 712 高田 勝弘
副支部長 №1016 村林 修次

平成 22 年 9 月末、大黒支部長が体調不良で退任されることになられ、急遽上記の通り、役員変更し理事会承認を受け新体制で出発しました。大黒前支部長は支部創設以来、ご苦労され支部員一同感謝しております。今後は気楽にハワイ生活を楽しまれたいことをお祈りします。

さて、昨今、ハワイ支部が創設されてから年々来訪者も増え本年も 16 回開催のサロン会総参加者 112 名にものぼりました。2 月 3 月は役員帰国のためサロン会を開催しておりませんが、この間も長期短期の来訪会員の方も 4 組 8 名おられます。

ハワイは多少費用はかかりますが、環境も自然があり、ちょっと都会的でもあり、一度来島されればまた来たいのは当然かと思われま

す。村林副支部長も定期的に南国 ML でアロハ情報を掲載され皆様に情報を送っております。

本年も多くの会員の皆様が来訪して南国を楽しむことを期待しております。

平成 22 年度 バギオ・パンガシナン支部活動報告

バギオ・パンガシナン支部長 № 227 斎木 一

この会報がお手元に届いている頃は、北ルソンはもう真夏です。学校は夏休みの最中です。3 月 11 日の東北・関東大震災から 2 ヶ月を経過した時期で、日本が再建に向けて力強く動き出している事を期待しています。

バギオは高原の避暑地として最高の時期を迎えています。連日多くの観光客・避暑客で賑わっています。パンガシナンはリングエン湾沿いの海浜リゾートが人気です。

支部としては、パンガシナンを主体に現地情報をお届けしています。2010 年 12 月から

LS をスタートした会員の滞在のお手伝いをしながら、パンガシナンに LS を希望される会員の為のノウハウの蓄積に努めます。従来から継続している現地でのボランティアは、6 月からスタートする新学期に備えて準備をしています。新しい小学校への取り組みを検討しています。

日本の復興に向けて日本人全体が海外ボランティアの関心を無くさない様にバギオ・パンガシナンで現地の子供達へのボランティアを続けます。

平成 22 年度九州支部活動報告

九州支部長 №581 朝永 清寿

22 年度は、定例の情報交換会に加えてミニサロン会やお楽しみ会を開催し、九州支部会員相互間の仲間づくりと親睦を図りました。

ホームページにも掲載していますが、この 1 年間の活動内容を下記のとおり報告します。

記

1 定例支部情報交換会

福岡市と熊本市で開催していましたがマンネリ化防止のため、開催地に北九州市を加え次の通り開催。

4 月 3 日・・・熊本市市民活動支援センター

7 月 4 日・・・福岡市 NPO ボランティア
交流センター

11 月 7 日・・・北九州市生涯学習センター

1 月 8 日・・・福岡市 NPO ボランティア
交流センター

2 ミニサロン会

定例の情報交換会に加えて、随時・随所で開催。

○7 月 9 日～10 日（泊）

南部地区サロン会

鹿児島県志布志市（民宿・涼風）

○9 月 7 日

熊本サロン会

パソコン教室及び情報交換会

熊本市市民活動支援センター（あいぽーと）

○9 月 24 日

蕎麦打ち

福岡市（あいれふ）

○10月8日～9日（泊）

栗拾い、ゴルフ、バーベキュー、及び蕎麦打ち

熊本県上益城郡甲佐町（森田会員宅）

○12月13日～14日（泊）

河豚忘年会

下関市、国民宿舎「海峡ビュー下関」

○1月30日

熊本サロン会

イベント広場での公開による情報交換会

熊本市民活動支援センター（あいぽーと）

○2月6日

蕎麦打ち

福岡市（あいれふ）

○チェンマイでの九州支部ミニサロン会

6月15日、8月11日、12月23日

e t c

※それぞれお役立ち情報満載の会になりました

3 役員会

6月11日・・・福岡市NPOボランティア交流センター

7月22日・・・スカイプ会議

1月12日・・・スカイプ会議

3月18日・・・福岡市NPOボランティア交流センター

4 その他

10月10日熊本市、国際交流センターにおいて「ロングステイセミナー」が開催され、南国暮らしの会から支部長がトークショーに参加。

以上のとおり報告致します。

今後とも積極的に活動をして参りたいと考えています。

関西支部便り

関西支部長 №891 徳永 卓雄

支部の主要な活動を報告します。

○ 支部忘年会の開催

～ダバオ下見ツアーの話題で盛り上がる～

12月11日（土）11時から大阪駅前第三ビル地下2階の「ダイニングカフェ Sa」で支部の忘年会を開催しました。参加者36名。

3月の「ダバオ下見ツアー」を控えて、ダバオ情勢に詳しい元会員の 森川 忠 さんに「ダバオ情勢」について講演をしていただきました。



会場の様子



森川 忠さん

○ 第4回パソコン教室の開催

1月11日（火）13時30分から今年度第4回

のパソコン教室を開催しました。場所はいつもの大阪市立生涯学習センターのメディア教室です。16名が参加しました。終了後は例によって懇親会へ。

○ ダバオ下見ツアーの実施

2月28日から3月7日をコア日としてダバオ下見ツアーを実施しました。現地集合方式としそれぞれ各自で航空券を購入して参加しました。先行して滞在している山本さんや有元さん等のお世話で、現地の日比ボランティア協会を通じてコンド視察、孤児院訪問、ラフティング(急流下り)、アイランドホッピングなど楽しい行事をして過ごしました。また現地滞在中の南の会メンバーとも食事会などで交流しました。参加者総計20名でした。



日本歴史資料館前で



ラフティング

関東甲信越支部活動報告

関東甲信越支部長 №1125 佐々木 一信

22年度は会員各位の協力と支部お世話役のもと6月を除き、毎月サロン会を開催し活発な情報交換を行いました。その後行われる懇親会はいつものレストランや居酒屋において、和やかに情報交換や懇親を深めました。今年度の外部講師はフィリピン政府観光省の横山泰彦氏、ミクロネシア連邦共和国観光局の重野功氏をお迎えし、プロジェクタを用いてそれぞれの紹介をしていただき、活発な質疑応答が行われました。

また、同好の士が集まりテニス、下見ツアーが行われました。

支部世話役会はサロン会開催日の午前中に行われ、当日の役割確認及び来月の予定等を打合せを行いました。



関東甲信越支部 サロン会

課題として、サロン会参加者の大半が会員番号1000番台以上の方で、古いLSベテラン会員も参加出来るようにするには、サロン会の内容をどうすべきかを早急に考える必要が迫られています。

平成22年度北海道支部活動情報

北海道支部長 №1009 佐藤 治己

1. 22年10月2日に第2回情報交換会及び懇親会実施（28名参加）、22年10月26日は女性ミニサロン会（9名参加）をそれぞれ実施しました。実施の詳細はHPの支部便りをご覧ください。
2. これらの行事の後は支部活動はしばし冬眠状態となりますが、チェンマイで厳冬の北海道を逃れる会員も年々増えており、現地で食事を数回行う等定例化しました。（写真）

3. 23年度の第1回支部総会は6月4日（土）を予定しております。この時期、体験移住等で来道されている会員の方で希望があれば情報交換の場を設けたいと思っております。その他、ミニサロン会、ふれあいゴルフ会なども例年通り実施する予定です。



グリーン・バレーG.C（チェンマイ）

会員からの投稿写真



ワット・アルン（暁の寺） / バンコク



カイバー・メコン川 / ベトナム

写真ご提供有難う御座います。

写真は、執筆者からのものを除くと、会報編集委員会からの提供です。

東海支部 22 年度活動報告

東海支部長 №543 清水 重一



3月役員会終了時みなさんほっとしています？

22年度行事計画激論の末一同ホットした気分のところシャッターを切りました、この後定例会に役員一同悠々と臨みました。

終了後懇親会で身も心もすっきりになりました。今年も元気にやるぞー??!!

ニュージーランド・クィーズランド在住の神谷美智子様によるセミナー会を開催し多大な情報をいただきました、神谷さんは独身でもあり殿方も目を白黒させ、取分け熱心でした終了後日本料理店で懇親会を行い益々盛り上がり大成功のセミナーで楽しい1日でした。



9月神谷さんクィーズタウンセミナー



11月タイ納得セミナー相談ブース

支部最大のイベントを市内グランコートホテルでタイ納得セミナー会場の一部ブースを借り会員募集のPRを行い、我々のブースには多くの人が問い合わせに来て対応に追われ、楽しいセミナーでした。

南国暮らしの会 支部一覧

2011年5月現在

支 部 名	会員番号	支部長名	e-mail アドレス
北海道支部	1009	佐藤 治己	ja8sato@snow.ocn.ne.jp
東北支部	498	氏家 孝	takashiujiie3322@yahoo.co.jp
関東甲信越支部	1125	佐々木 一信	gogo.k.sasaki@kvf.biglobe.ne.jp
東海支部	543	清水 重一	shimizu434@mwd.biglobe.ne.jp
関西支部	891	徳永 卓雄	michitac1938@gmail.com
九州支部	581	朝永 清壽	ktomo581@yahoo.co.jp
マニラ支部	※1269	岩崎 宏	iwasaki@friendshipmanila.com
セブ支部	※ 636	鶴岡 照郎	telu@wave.plala.or.jp
バギオ・パンガシナン支部	227	斎木 一	saikihajime@hotmail.com
ダバオ支部	—		
バンコク支部	—		
チェンマイ支部	54	山口 洋二	obito2006kyotai@yahoo.co.jp
クアラルンプール支部	—		
ペナン支部	1020	松下 茂	yoko-papa@hotmail.co.jp
ハワイ支部	※ 712	高田 勝弘	toro21@richi—ho.ne.jp
ゴールドコースト支部	※ 586	磯崎 興志	isozakiks586@w4.dion.ne.jp
パース支部	—		

※ は支部長代行

友好団体紹介コーナー

- ★財団法人ロングステイ財団
<http://www.longstay.or.jp>
- ★チェンマイロングステイライフの会
(CLLクラブ)
<http://cll.thaijp.net/>
- ★ワールドステイクラブ (WSC)
<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>
- ★THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR KL
(クアラルンプール) 日本人会
<http://www.jckl.org.my/>
- ★北ルソン日本人会 (JANL)
<http://janlexblog.jp/>
- ★バンコク日本人会
- ★西豪州日本クラブ

編集後記

初めて会報担当で試行錯誤でしたが、多くの方のご協力を頂き発行に漕ぎ着け、ほっとしています。ご協力頂きました皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

冬場はチェンマイに行くことを始めて5年になりますが、いつも温顔を湛えた酒匂さんに会えることを楽しみにしていました。南の会の精神を自ら率先して体現し、模範を示していた酒匂さんの訃報は残念の極みでした。

3月11日に東日本大地震が発生し、多くの方が犠牲となり、被災者も膨大な数と地域に及んでいます。一日も早い復興を願っています。

NO. 1017 光城 保之 NO. 515 青木 方子

「南国暮らしの会」からのお勧め

* 自己責任 * 納得の上 * 自己決定

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

【連絡先一覧】

- (1) MLメールアドレスの変更 mail.iinkai@gmail.com
 - (2) 会員関係（住所変更など） kaiin.bukai@gmail.com
 - (3) 経理関係（会費、名刺ロゴマークなど） keiri.iinkai@gmail.com
 - (4) その他一般 home@minaminokai.com
- （メールには用件の他に会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスを明記して下さい。またMLメールアドレス変更の場合は、ウイルス防止のためご利用のウイルス防止ソフト名あるいはプロバイダのウイルスチェック契約の有無を追加してください）

〔編集委員〕

No.1125	佐々木 一信	No. 513	青木 方子
No. 750	小松 勝正	No.1017	光城 保之
No.1041	中西 岩夫	No.1067	手石方 了成
No.1230	吉野 正博		

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 馬場 章介

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

<http://www.minaminokai.com/>

E-mail: info@minaminokai.com



投稿写真コーナー



チェンマイ



チェンマイゴルフ



ゴルフ場からタナロット寺院を望む



バリ島・タナロット寺院



ルアンパバン・ワットシェントーンの壁画



龍勝棚田